

IV 研究指導概要、研究科規程 及び専攻別教育課程表

文学研究科

研究指導概要

原則として下記のような指導に基づいて研究を進める。

博士前期課程

1. 各セメスタの指導内容

1 セメスタ

- ・研究テーマを特定し、履修計画について指導を受ける。
- ・研究計画を立案し、資料収集・調査など研究に必要な研究方法論を修得する。
- ・本人の問題意識、研究テーマにかかわる研究分野の先行研究レビューのための指導を受ける。

2 セメスタ

- ・研究計画の達成状況に応じて、研究計画の再検討や見直しを行う。
- ・研究テーマに関連した先行研究や研究方法についてプレゼンテーションと討論を経験し、研究深化のためのプレゼンテーション能力とディスカッション能力を養う。
- ・修士論文の骨子および構成について検討する。

3 セメスタ

- ・確定した研究テーマに基づいて調査・分析などを行い、研究方法の妥当性を検証しつつ、研究成果のとりまとめを行う。また、各専攻主催の研究発表会などで構想の中間報告を行う。

4 セメスタ

- ・研究成果を修士論文にまとめ、論文構成、分析結果、論文の表現等について総合的な指導を受ける。
- ・研究精度を高めて、修士論文を完成する。

2. 論文報告会（論文発表会）等

当該セメスタに修士論文を提出予定の者は、各専攻主催の研究報告会あるいは研究発表会などで、論文執筆の進捗状況の報告あるいは論文の成果を発表する。

詳細は、各専攻の指示による。

3. 特定課題研究論文

英文学専攻、教育学専攻および国際文化コミュニケーション専攻では、修士論文の提出にかえて、特定課題研究論文の提出を認めている。特定課題論文とは、特定の課題について実践的に調査・研究した論文をいう。特定課題研究論文での提出を希望するものは、以下の要件に沿って提出すること。

英文学専攻

1. 論文の題目・内容については、主指導教授との相談により決定する。
2. 教育現場の質の向上・改善に資する研究成果を挙げ、専修免許の取得を目指す者を対象とする。但し、博士後期課程への進学を志望する場合には、特定課題研究論文の提出は認めない。

教育学専攻

1. 主指導教授および副指導教授と協議し、原則として第1セメスタ終了時までには、修士論文、特定課題研究論文のいずれかを選択する。
2. 博士後期課程への進学を希望する場合には特定課題研究論文を選択することはできない。修士論文を選択すること。
3. 特定課題研究論文を提出予定の者も、修士論文中間報告会および修士論文成果報告会で報告しなければならない。
4. 特定課題研究論文において、カリキュラムや教材の開発、実践研究報告、作品や演奏等、自らの実践の成果を研究テーマにした場合は、それらの成果についても論文の枚数および字数に含めることができる。

国際文化コミュニケーション専攻

1. 論文の題目・内容については、主指導教授との相談により決定する。
2. 特定課題研究論文を提出できる者は、英語教育（専修免許状の取得を目指す者）または日本語教育の教育現場において、カリキュラムや教材の開発、実践研究報告等、教育の向上に資する実践的な成果を有する者とする。但し、博士後期課程への進学を志望する場合には、特定課題研究論文の提出は認めない。
3. 特定課題研究論文の提出を希望する者も修士論文中間報告会および修士論文成果発表会に参加する。

博士後期課程

1. 各セメスタの指導内容

1 セメスタ

- ・本人の問題意識やこれまでの研究経過をふまえ、主指導教授の指導と副指導教授の助言を受けて研究テーマおよび研究方法を決める。
- ・研究計画を立案し、資料収集・調査等の詳細および研究スケジュールを決定する。

2 セメスタ

- ・研究テーマに関連ある先行研究レビューを行い、先行研究の成果と課題を整理する。
- ・研究計画の達成状況に応じて、自己の研究計画の再検討や見直しを行う。
- ・研究テーマに関連した研究方法および資料分析についてプレゼンテーションや討議を経験し、研究の深化を図る。
- ・学会発表並びにレフェリー制のある学会誌への研究論文の執筆計画を立案する。

3 セメスタ

- ・主指導教授と相談しながら、研究計画の再確認・再検討を行い、必要に応じて修正案を練る。
- ・学会発表並びに研究論文の投稿に向けて、草稿を作成する。

4 セメスタ

- ・研究成果を論文等にまとめ、論文構成、分析結果、論文の表現等について総合的な指導を受ける。
- ・国内外での学会発表や論文投稿等に向けた指導を受け、発表を行う。

5 セメスタ

- ・国内外での学会発表や論文投稿を行い、そこで得られた助言や批判にもとづいて、論文の修正と推敲を行う。

6 セメスタ

- ・指導教授および副指導教授の指導助言にもとづいて、博士学位請求論文を提出する。

2. 論文報告会（論文発表会）等

博士（甲）論文を提出しようとする者は、専攻等の主催する報告会等において、研究の進捗状況および論文等の概要を論文提出前に発表する。

詳細は、各専攻の指示による。

東洋大学大学院文学研究科規程

平成29年規程第27号

平成29年4月1日

施行

改正 平成30年4月1日 平成31年4月1日
令和2年4月1日 令和3年4月1日

(趣旨)

第1条 この規程は、東洋大学大学院学則（昭和29年4月1日施行。以下「学則」という。）第4条第5項に基づき、東洋大学大学院文学研究科（以下「文学研究科」という。）の教育研究に関し必要な事項を定める。

(人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的)

第2条 文学研究科は、学則第4条の2に基づき、研究科及び各専攻の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を別表第1のとおり定める。

(修了の認定及び学位授与、教育課程の編成及び実施並びに入学者の受入れに関する方針)

第3条 文学研究科は、学則第4条の3に基づき、各専攻の修了の認定及び学位授与に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針並びに入学者の受入れに関する方針を別表第2のとおり定める。

(教育課程)

第4条 文学研究科は、学則第5条の2及び第7条に基づき、各専攻の教育課程における科目区分、授業科目及び研究指導科目の名称、単位数、配当学年、履修方法を別表第3のとおり定める。

(修了に必要な単位等)

第5条 文学研究科は、学則第12条及び第13条に基づき、各専攻の修了に必要な単位等を別表第4のとおり定める。

(教育職員の免許状)

第6条 学則第19条に基づき、文学研究科で取得できる免許状の種類及び教科は、次表のとおりとする。

| 専攻 | 免許状の種類及び教科 | | |
|---------------|-------------|------------|---|
| | 高等学校教諭専修免許状 | 中学校教諭専修免許状 | その他 |
| 哲学 | 公民 | 社会 | - |
| インド哲学仏教学 | 公民 | 社会 | |
| 日本文学文化 | 国語 | 国語 | |
| 中国哲学 | 国語 | 国語 | |
| 英文学 | 英語 | 英語 | |
| 史学 | 地理歴史 | 社会 | |
| 教育学 | 地理歴史・公民 | 社会 | 特別支援学校教諭専修免許状 (知的障害者) (肢体不自由者) (病弱者) |
| | | | 小学校教諭専修免許状 |
| 国際文化コミュニケーション | 英語 | 英語 | - |

(教育職員の免許状取得のための授業科目及び単位数)

第7条 学則第19条第2項に基づき、文学研究科で教育職員の免許状を取得しようとする者は、別表第5に定める所定の授業科目の単位を修得し、東洋大学大学院（以下「本大学院」という。）の課程に1年以上在学し30単位以上修得、又は学則第12条に規定する要件を充足しなければならない。

(改正)

第8条 この規程の改正は、学長が文学研究科委員会の意見を聴き、研究科長会議の審議を経て行う。

附 則

- この規程は、平成29年4月1日から施行する。
- 前項の規定にかかわらず、平成28年度以前の入学生については、第4条別表第3を除き、なお従前の例による。

附 則

- この規程は、平成30年4月1日から施行する。

- 2 前項の規定にかかわらず、平成29年度以前の入学生については、改正後の第3条及び第3条別表第2並びに第4条別表第3を除き、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規程は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 前項の規定にかかわらず、平成30年度以前の入学生については、第4条別表第3を除き、なお従前の例による。ただし、英語コミュニケーション専攻は、平成31年3月31日に当該専攻に在籍する者が当該専攻に在籍しなくなるまでの間、存続する。

附 則

- 1 この規程は、2020年4月1日から施行する。
- 2 前項の規定にかかわらず、2019年度以前の入学生については、第4条別表第3を除き、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規程は、2021年4月1日から施行する。
- 2 前項の規定にかかわらず、2020年度以前の入学生については、第7条別表第5のうち小学校教諭専修免許状表について、なお従前の例による。

別表第1 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（第2条関係）

文学研究科

| 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的 |
|---|
| <p>【博士前期課程】</p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 人間の知的活動に関わるそれぞれの専門科目について、高度な知識と教養を持ち、それを実際に活用して主体的に社会の課題に取り組むことのできる人材を養成することを目的とする。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 人間の知的活動に関わるそれぞれの専門科目について深い理解と洞察力を有し、それを表現できる能力を習得させることを目的とする。</p> <p>【博士後期課程】</p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 人間の知的活動に関わるそれぞれの専門科目について高度の専門的知識と研究能力を持ち、それによって文化の向上に寄与するとともに社会の要請に創造的に応えることのできる人材を養成することを目的とする。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 人間の知的活動に関わるそれぞれの専門科目について深い理解と洞察力を有し、それを研究論文として論理的に説明し社会に発信できる能力を習得させることを目的とする。</p> |

文学研究科哲学専攻

| 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的 |
|--|
| <p>【博士前期課程】</p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 理論哲学と実践哲学との統合を目指し、現実直面する課題に対して問題解決のための様々な提案、アイデアを提起できるような人材の養成を目的とする。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 哲学理論を核心に据えながらも、医学を含む多面的思考を習得させ、各種境界領域においてさまざまな人的・知的資源を有効に組み立てることのできる能力を習得させることを目的とする。</p> <p>【博士後期課程】</p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 理論哲学と実践哲学との統合を目指し、深い哲学的知識に基づきながら、現実直面する課題解決のために様々なアイデアを提起し、かつ自らその実現に尽くすことのできるような人材の養成を目的とする。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 テキスト研究・哲学史・解釈史研究を中軸に据え、伝統的な哲学の場に立って現実社会に対して提言をする専門的研究者に必要な能力を習得させることを目的とする。</p> |

文学研究科インド哲学仏教学専攻

| 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的 |
|---|
| <p>【博士前期課程】</p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 仏教思想と文化、またはインド思想と文化に関する豊かな学識を有し、それらを実社会で活用できる人材を養成することを目的とする。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 仏教思想と文化、またはインド思想と文化の研究に不可欠な諸言語の十分な能力を習得させるとともに、文献解読や調査等に必要となる社会的能力を習得させ、総合的な研究能力を習得させることを目的とする。</p> <p>【博士後期課程】</p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 仏教思想と文化、またはインド思想と文化に関して自立的で卓越した研究能力を有する人材を養成することを目的とする。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 仏教思想と文化、またはインド思想と文化の研究に係わる高度な専門的業務に従事しうる能力を習得させることを目的とする。</p> |

文学研究科日本文学文化専攻

| 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的 |
|--|
| <p>【博士前期課程】</p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 各自の研究課題を軸として、広く日本文学文化分野を考究し、国際化時代に適応する高度教養人や高度職業人、とりわけ、研究実践に基づく卓越した能力を持つ国語科中等教育教員などの人材を養成することを目的とする。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 国際化時代に対応した日本文学文化の研究実践を通して、哲学的洞察力をもって文化の継承と創造に積極的に寄与しうる研究能力を習得させることを目的とする。</p> <p>【博士後期課程】</p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 専門知識を学術的に展開する研究者としての資質を成長させ、研究能力を生かした日本文学文化分野の研究職員及び国際社会に対応できるような高度な専門的業務に従事できる人材を養成することを目的とする。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 国際化時代に対応した日本文学文化の研究実践を通して、哲学的洞察力をもって文化の継承と創造に積極的に寄与しうる専門的かつ高度な研究能力とそれを社会に還元できる能力を習得させることを目的とする。</p> |

文学研究科中国哲学専攻

| 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的 |
|---|
| <p>【博士前期課程】</p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 中国哲学・中国文学・中国語を三位一体のものとして学び、古典を理解する教養を持つとともに、現代の中国をも理解する力を持ち、これを活用して幅広く社会で活躍できる人材を養成することを目的とする。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 原典読解力と中国学の学習で得た知見とに基づいて物事を合理的に考察し、それを論理的に表現できる能力を習得させることを目的とする。</p> <p>【博士後期課程】</p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 優れた原典読解力に基づいて、東アジア漢字文化圏の支柱となってきた中国の哲学および文学遺産の歴史的・今日的意義を明らかにして社会に寄与できる人材を養成することを目的とする。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 独自の手法や視点に基づき、高度な知見と見識を駆使して、中国の哲学や文学の意義を明らかにすることで社会に寄与する研究論文を作成できる能力を習得させることを目的とする。</p> |

文学研究科英文学専攻

| 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的 |
|---|
| <p>【博士前期課程】</p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 英語の十分な運用能力と英米文化についての基礎的知識を有し、これを教育、研究あるいは一般社会におけるその他の専門領域において活用できる人材を養成することを目的とする。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 近代英語で書かれた文学テキストを読み、必要な文献を参照して、学術スタイルの論文・レポートを書くことができる能力を養成し、これを通して修了後の多方面でのキャリアのために十分な英語運用能力と英米文化についての基礎知識を身につけさせ、社会の多方面で応用できる専門的かつ実践的能力を習得させることを目的とする。</p> <p>【博士後期課程】</p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 前期課程で養われた能力を基盤として、英語の十分な運用能力と英米文化についての高度な知識を有し、これを教育、研究あるいは一般社会におけるその他の専門領域において活用できる人材を養成することを目的とする。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 英米文学・語学において博士号を取得できる水準の自立的研究能力を養成する。このために文学テキスト・語学資料はもちろん、多方面にわたる研究書を読みこなし、これらの諸資料を適切に処理することによって、独創的な論文を書き、発表できる力を持てるよう指導する。こうして得られた学識と英語力を活かして、研究職のみならず社会の多方面で活躍できる能力を習得させることを目的とする。</p> |

文学研究科史学専攻

| 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的 |
|---|
| <p>【博士前期課程】</p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 歴史に対する深い知識と洞察力を持ち、学校教育、社会教育、ならびに情報産業等の幅広い分野で活躍する、高度の専門性を持つ人材を養成することを目的とする。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 日本史学・東洋史学・西洋史学の3コースを置き、歴史を幅広く理解するとともに、専門領域を深く探求する研究能力、およびそれを利用して社会に貢献する能力を習得させることを目的とする。また、博士後期課程進学のための研究能力を習得させることを目的とする。</p> <p>【博士後期課程】</p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 専門とする歴史学の領域において独創的な研究により学界に寄与し、歴史研究者として自立した研究活動を営み、その能力を通じて社会に貢献できる人材を養成することを目的とする。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 日本史学・東洋史学・西洋史学に関わる多くの専門科目を置き、歴史を幅広く理解するとともに、専門領域に深い学識を有し、新たな体系的知見を学界・社会に還元する能力を習得させることを目的とする。</p> |

文学研究科教育学専攻

| 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的 |
|--|
| <p>【博士前期課程】</p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 教育について高い見識を持ち、学校教育、社会教育で活躍する高度職業人、および行政機関や非営利団体、知識情報産業などで活躍する人材の養成を目的とする。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 教育諸問題について広い視野に立つことを可能にする深い学識、および教育関連諸分野における実践的かつ専門的能力を習得させることを目的とする。</p> <p>【博士後期課程】</p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 教育学・心理学を学んだ成果を生かし、学校教育や社会教育分野において指導的立場で活躍する高度職業人、および行政機関や非営利団体、知識情報産業などで活躍する指導的人材の養成を目的とする。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 教育諸問題について幅広い視野から研究する力量、および自立的な研究者に必要な研究能力、さらには、教育関連諸分野において指導的立場で活躍できる資質と能力を習得させることを目的とする。</p> |

文学研究科国際文化コミュニケーション専攻

| 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的 |
|---|
| <p>【博士前期課程】</p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 英語を中心とした外国語の高度な運用についての豊富な知識と多様な分析手法を習得し、多言語多文化社会に対する深い理解力とグローバル社会への柔軟で実践的な適応力を身に付けた国際的な高度専門職業人及び教養人、言語コミュニケーション及び世界の諸地域の文化に関する専門的教育・研究の分野で活躍できる人材を養成する。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 英語を中心とした外国語による実践的で高度な言語運用能力によるコミュニケーションへの深い理解力と、多様な課題に対応する能力とを習得させるとともに、欧米やアジアの文化などへの深い理解力と教養、グローバルな多言語多文化社会の中で活躍できる哲学的な思考力、実践的な研究能力を習得させることを目的とする。</p> <p>【博士後期課程】</p> <p>(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか コミュニケーションや多様な文化に関する高度で専門的な知識及びグローバルな学術研究能力を身に付け、それらの能力を生かし得る国際関係機関や国内外の大学や研究所等の専門教育研究機関で活躍できる実践的な人材を養成する。</p> <p>(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 グローバルな水準で通用しうる高度で専門的な研究能力を習得させ、国内外でのグローバル社会の発展や文化交流に貢献しうる実践的能力を習得させることを目的とする。</p> |

別表第2 修了の認定及び学位授与、教育課程の編成及び実施並びに入学者の受入れに関する方針（第3条関係）

文学研究科哲学専攻

| |
|--|
| <p>1. 修了の認定及び学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）</p> <p>【博士前期課程】 以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限・単位数等を満たし、修士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、修士の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 従来研究成果を十分に吸収した上で、その適切な活用を行う能力を身につけている。 (2) 当該研究分野において新たな知見を付与する独創性を身につけている。 (3) 分析の面においても論理展開の面においても、自立的な研究者として研究活動を行うことのできる、高度な研究能力を示す実証性、体系性を身につけている。 (4) 高度な専門的業務を遂行するに十分な学識と能力を身につけている。 <p>【博士後期課程】 以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限を満たし、博士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、博士の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 従来研究成果を十分に吸収した上で、その適切な活用を行う能力を身につけている。 (2) 当該研究分野において新たな知見を付与する独創性を身につけている。 (3) 分析の面においても論理展開の面においても、自立的な研究者として研究活動を行うことのできる、高度な研究能力を示す実証性、体系性を身につけている。 (4) 高度な専門的業務を遂行するに十分な学識と能力を身につけている。 (5) 学界や社会に寄与する論文を執筆する研究能力を身につけている。 |
| <p>2. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）</p> <p>【博士前期課程】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法 「哲学研究指導」科目を中心に、「古代哲学、中世哲学、近世哲学、現代哲学、比較哲学、論理学、倫理学、実践哲学」等の科目を幅広く開講し、各自の専門領域の外国語テキストの解説、解釈を徹底するとともに、精神医学など多方面の知識を習得させる。また研究指導においては、各自のテーマに合わせて、そのテーマに必要な能力の養成を行う。 (2) 成績の評価 成績の評価については、以下の要素・方法により評価する。 ①授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。 ②研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。 ③学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。 <p>【博士後期課程】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法 1年間の海外留学を推奨し、外国語テキストの一次文献、二次文献の読解力、作文力の習得を目指す。また、実践哲学を通しての実践領域における諸問題の哲学的解明を有効に展開しうる能力を養成し、各自の論文課題にしたがって科目を選択できる教育課程を整備する。 (2) 成績の評価 成績の評価については、以下の要素・方法により評価する。 ①授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。 ②研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。 ③学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。 |
| <p>3. 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）</p> <p>本専攻の目的に即して、理論哲学と実践哲学のどちらを中心にするにしても、両方の統合に努力し、社会における諸問題に関して統合的哲学研究を通して解決する能力を有する人材の養成に努めるべく、それにふさわしい知識、能力、意欲のある人材を受け入れる。</p> <p>【博士前期課程】 入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 問題の中心的な課題を見出すための知識のある者 (2) 解決の選択肢を複数個設定することのできる能力のある者 (3) 上記に必要な持続的な作業を支える意欲のある者 <p>【博士後期課程】 入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 問題の中心的な課題を見出し、さらに新たな問題そのものを発見していくための知識のある者 (2) 解決の選択肢を複数個設定し、手続き的な優先順位を決めることのできる能力のある者 (3) 上記に必要な持続的な作業を発展的に支える意欲のある者 |

文学研究科インド哲学仏教学専攻

| |
|--|
| <p>1. 修了の認定及び学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）</p> <p>【博士前期課程】 以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限・単位数等を満たし、修士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、修士の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) インド思想あるいは仏教思想とそれに関連する文化的諸事象に関する専門知識を身につけている。(2) インド思想あるいは仏教思想とそれに関連する文化的諸事象を理解するのに必要な言語能力を修得し、自らの目的意識に沿って、それらの言語で書かれた資料から必要な情報を集め、整理する能力を身につけている。(3) インド思想あるいは仏教思想とそれに関連する文化的事象に関して、実社会が直面する諸問題を背景に、独自の視点に立って論理的な論述を行う能力、また、論理的で説得力に富むプレゼンテーションを行う能力を身につけている。 <p>【博士後期課程】 以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限・単位数等を満たし、博士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、博士の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) インド思想あるいは仏教思想とそれに関連する文化的諸事象に関する高度な専門知識と、当該分野を研究するための高度な言語能力を身につけている。(2) インド思想あるいは仏教思想とそれに関連する文化的諸事象に関して、実社会が直面する諸問題を背景としつつ、独自の視点から新たな問題を見出し、自ら収集した種々の資料に基づいてそれを論理的に解明する能力を身につけている。(3) 統一されたテーマのもと、豊富な内容をしっかりとした構成によって論理的に論述する能力、国内外の専門的な学会において、自らの研究内容について論理的にプレゼンテーションをする能力を身につけている。 |
| <p>2. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）</p> <p>【博士前期課程】</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法 ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目は、3領域から構成され、インド思想・文化研究には「インド哲学研究」、仏教思想・文化研究には「インド仏教研究」と「東アジア仏教研究」を開講し、各科目とも講義で研究課題の概説をし、演習では主に原典読解を指導して、当該分野における研究課題と方法の基本を教授する。研究指導はおもに主指導教員が修士論文執筆予定者に個別に論文執筆の具体的な指導をする。(2) 成績の評価 成績については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。 ① 授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。 ② 研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。 ③ 学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。 <p>【博士後期課程】</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法 ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目はインド思想・文化研究および仏教思想・文化研究のために各々「特殊研究」を開講し、各科目とも講義で高度な研究課題を提示し、演習では研究動向の指導と主に原典解読を指導して、博士論文執筆予定者の資料研究を教授する。研究指導はおもに主指導教員が個別に論文執筆ならびに学会発表の具体的な指導をする。また、研究分野・内容によって海外の研究機関への留学も薦める。(2) 成績の評価 成績については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。 ① 授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。 ② 研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。 ③ 学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。 |
| <p>3. 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）</p> <p>【博士前期課程】 入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学希望者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 当該分野に関して基本的で広汎な知識のある者(2) 誠実で自らを律しながら研究に取り組み、研究資料を十分に読解し、その成果を体系的に表現できる能力のある者(3) 研究対象に主体的に真摯に取り組み、必要に応じて協働で研究するなどの意欲のある者 <p>【博士後期課程】 入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学希望者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 当該分野に関する広汎かつ高度な知識と研究動向についての知識のある者(2) 研究領域に関わる語学能力と独創的研究に耐えうる能力のある者(3) 自立的に研究を進め、研究者としての社会的倫理性を高める意欲のある者 |

文学研究科日本文学文化専攻

1. 修了の認定及び学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

【博士前期課程】

本研究科・専攻における人材養成に関する目的及び教育研究上の目的を踏まえ、以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限・単位数等を満たし、修士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、修士の学位を授与する。

- (1) 日本文学文化に関わる基本的な知識および専門とする領域に関わる専門的知識を身につけている。
- (2) 専門分野の研究方法に基づき、テーマを設定して研究を遂行し、それを論理的に分析・討議することができる。
- (3) 日本文学文化研究に積極的に寄与しうる修士学位論文を作成する能力を身につけている。

【博士後期課程】

本研究科・専攻における人材養成に関する目的及び教育研究上の目的を踏まえ、以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限を満たし、博士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、博士の学位を授与する。

- (1) 日本文学文化に関わる広い視野と深い学識を有し、専門とする領域について高度な専門的知識を身につけている。
- (2) 独自の研究課題に基づいて研究計画を立て、独創性に富む新たな知見を導く論理的な分析力と研究遂行力を身につけている。
- (3) 新たな知見を公表し学界・社会に還元する能力を身につけている。
- (4) 広く学界に寄与しうる博士学位論文を作成する高度な能力を身につけている。

2. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

【博士前期課程】

(1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法

ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目は、古代日本から近現代日本に至る文学文化と日本語を中核に、講義科目と演習科目を有機的に連携させて配列するとともに、文化間融合の観点から「隣接領域科目」を、日本文学文化を相対化、比較対照する観点から「比較文学文化科目」を、それぞれ講義科目として設置し、各自が専門的かつ横断的に選択履修できるよう編成する。いずれも専門分野を幅広い視点から探究できるような学問領域のエッセンスとテーマを掲げて教授する。研究指導は個人指導を重視し、各自が自らの研究課題を明確に設定、追究できるよう、問題の設定、分析の方法、参考文献や論文作成の方法などを、専門性の高いレベルできめ細かに指導する。

(2) 成績の評価

成績については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。

- ① 授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。
- ② 研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。
- ③ 学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。

【博士後期課程】

(1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法

ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目は、各自が専門分野をより深く探求できるよう、古代日本から近現代日本に至る文学文化と日本語についての講義科目を配列し、専門領域の現在的課題を教授する。研究指導は個人指導を重視し、各自が自らの研究課題を明確に定め追究できるよう、問題の設定、分析の方法、参考文献や論文作成の方法などを、専門性の高いレベルできめ細かに指導する。

(2) 成績の評価

成績については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。

- ① 授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。
- ② 研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。
- ③ 学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。

3. 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

【博士前期課程】

入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。

- (1) 日本語・日本文学の基礎知識のある者
- (2) 文学の基礎的読解力、外国語・漢文の基礎的能力のある者
- (3) 国際的視野に基づく文化の継承と創造への参画に意欲のある者

【博士後期課程】

入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。

- (1) 高度な専門知識と論理性を持つ修士論文を執筆できる能力を有している者
- (2) 日本語・日本文学の専門知識のある者
- (3) 外国語の基礎的能力のある者
- (4) 国際的視野に基づく文化の継承と創造への参画に意欲のある者

文学研究科中国哲学専攻

| |
|--|
| <p>1. 修了の認定及び学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）</p> <p>【博士前期課程】 本研究科・専攻における人材養成に関する目的及び教育研究上の目的を踏まえ、以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限・単位数等を満たし、修士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、修士の学位を授与する。</p> <p>(1) 中国の哲学や文学について専門的な知識を有し、正確な原典読解力を身につけている。 (2) 漢文（中国文）で著された中国古典および近現代作品の原典に基づいて、自ら考え設定した課題を考察し、表現する力を身につけている。</p> <p>【博士後期課程】 本研究科・専攻における人材養成に関する目的及び教育研究上の目的を踏まえ、以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限を満たし、博士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、博士の学位を授与する。</p> <p>(1) 中国の哲学や文学作品読解に関して、独自の手法や視点を身につけている。 (2) 中国の哲学や文学作品について深い学識を有するとともに、主体的な問題意識に基づいて研究論文を作成する力を身につけている。 (3) 高度な知見と見識の反映する研究成果を世に問い、学界に寄与する高度な水準の研究能力を身につけている。</p> |
| <p>2. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）</p> <p>【博士前期課程】 (1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法 ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目は、中国哲学・中国文学・中国語学にわたる演習科目や特論科目を配置し、原典の読解力を深めるとともに、文献の扱いに習熟するために、専門とする領域に上記三分野の科目を取組んで、重層的な中国理解を目指す。研究指導は、「研究指導」科目を設置し、研究方法の確立を目指して、論文作成の手順を指導する。</p> <p>(2) 成績の評価 成績については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。</p> <p>① 授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。 ② 研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。 ③ 学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。</p> <p>【博士後期課程】 (1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法 ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目は、中国哲学・中国文学に関わる「特殊研究」を配置し、文献の批判的検討と分析を行いつつ、優れた文献読解能力を涵養するとともに、独自の研究方法構築への方途を教授する。研究指導は、「特殊研究」と密接に結びついた「研究指導」科目によって、独自の手法や視点に基づいた研究論文の作成方法を指導する。</p> <p>(2) 成績の評価 成績については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。</p> <p>① 授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。 ② 研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。 ③ 学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。</p> |
| <p>3. 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）</p> <p>【博士前期課程】 入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。</p> <p>(1) 中国哲学・中国文学・中国語に関する基礎的知識のある者 (2) 文献の基本的読解能力をもち、文献を扱う基本的な訓練を経ている者 (3) 中国哲学・文学研究に、専門的に取り組もうとする意欲のある者</p> <p>【博士後期課程】 入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。</p> <p>(1) 中国哲学・中国文学・中国語に関する高度な知識のある者 (2) 優れた文献読解能力を持ち、文献の扱いに習熟した能力のある者 (3) 中国哲学・文学研究を深化させ、研究成果を研究論文の作成を通して発表してゆく意欲のある者</p> |

文学研究科英文学専攻

| |
|---|
| 1. 修了の認定及び学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー） |
| 【博士前期課程】 本研究科・専攻における人材養成に関する目的及び教育研究上の目的を踏まえ、以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限・単位数等を満たし、修士学位論文または特定の課題についての研究の成果（特定課題研究論文）の審査及び最終試験に合格した者に対して、修士の学位を授与する。 (1) イギリス文学・アメリカ文学・英語学の中で専門とするものに係る基本的な知識および専門とする領域に係る専門的知識を身につけている。 (2) イギリス文学・アメリカ文学・英語学の中で専門とするものを独自の研究方法に基づいて新たな知見を導く能力を身につけている。 (3) 学術的水準に達する修士学位論文を作成する能力を身につけている。 |
| 【博士後期課程】 本研究科・専攻における人材養成に関する目的及び教育研究上の目的を踏まえ、以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限を満了し、博士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、博士の学位を授与する。 (1) イギリス文学・アメリカ文学・英語学の中で専門とするものに係る基本的な知識および専門とする領域に係る専門的知識を身につけている。 (2) イギリス文学・アメリカ文学・英語学の中で専門とするものを分析する獨創性に富む問題意識や研究方法に基づく論理的な分析能力を身につけている。 (3) 学界に寄与する博士学位論文を作成する高度な研究能力を身につけている。 |
| 2. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー） |
| 【博士前期課程】 (1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法 ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目は英文学・米文学・英語学の三分野に対して均等に演習と講義科目を配列し、受講生との対話を重視する形で、それぞれの研究分野の現状、方法論などを教授する。研究指導は受講生個人々の要望を聞きながら受講生との対話を重視する形で、研究の対象、目標、それに応じた方法、方針を指導する。 (2) 成績の評価 成績については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。 ①授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。 ②研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。 ③学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。 |
| 【博士後期課程】 (1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法 ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目においては、受講生との対話を重視する形で、それぞれの研究分野の現状、方法論などを分析、検討する。研究指導においては、全国的あるいは国際的な学会での発表を念頭に、受講生が追究する研究の対象、目標、それに応じた方法、方針を検討する。ひいては博士論文の執筆につなげることを目途に、受講生との対話を重視し、個人々の要望を聞きながら、研究指導を進める。 (2) 成績の評価 成績については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。 ①授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。 ②研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。 ③学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。 |
| 3. 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー） |
| 【博士前期課程】 入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。 (1) 基本的な英語運用能力と英米文化に関する知識のある者 (2) 自己啓発に熱意をもって取り組む能力のある者 (3) 誠実に自らを律しつつ、研究に取り組む意欲のある者 |
| 【博士後期課程】 入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。 (1) 博士前期課程修了程度の英語運用能力と英米文化に関する知識のある者 (2) 創造的研究に耐えうる能力のある者 (3) 研究者として社会的倫理性を高めようとする意欲のある者 |

文学研究科史学専攻

| |
|---|
| <p>1. 修了の認定及び学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）</p> <p>【博士前期課程】 本研究科・専攻における人材養成に関する目的及び教育研究上の目的を踏まえ、以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限・単位数等を満たし、修士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、修士の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 歴史に係る基本的な知識および専門とする領域に係る専門的知識を身につけている。(2) 歴史学的な研究方法に基づいて新たな知見を導く能力を身につけている。(3) 新たな知見を社会に還元する能力を身につけている。(4) 学界の水準に達する修士学位論文を作成する能力を身につけている。 <p>【博士後期課程】 本研究科・専攻における人材養成に関する目的及び教育研究上の目的を踏まえ、以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限を満了し、博士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、博士の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 歴史に関する広い視野と深い学識を有し、専門とする領域について高度な専門的知識を身につけている(2) 独創性に富む問題意識や、歴史学的な研究方法に基づく論理的な分析能力を身につけている。(3) 新たな知見を学界・社会に還元する能力を身につけている。(4) 学界に寄与する博士学位論文を作成する高度な研究能力を身につけている。 |
| <p>2. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）</p> <p>【博士前期課程】</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法 ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目は日本史・東洋史・西洋史の3コースから構成され、政治・経済・社会・文化の幅広い領域について総合的な理解力を養成する科目を配置し、少人数の講義・演習により、史料を丹念に検証して史実を分析する歴史学的な研究方法や、最新の研究動向をふまえた学問的な知見を教授する。研究指導は、最新の研究動向をふまえて自ら課題を設定し、歴史学的な研究方法に基づいて新たな知見が導けるよう、個々の研究課題に即してきめ細かく指導する。(2) 成績の評価 成績については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。 ①授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。 ②研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。 ③学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。 <p>【博士後期課程】</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法 ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目は、政治・経済・社会・文化の幅広い領域について歴史的な理解力を養成する科目を配置し、少人数の講義・演習により、史料を丹念に検証して史実を分析する歴史学的な研究方法や、最新の研究動向をふまえた学問的な知見を教授する。研究指導は、最新の研究動向をふまえて自ら課題を体系的に設定し、歴史学的な研究方法に基づいて、学界に寄与できる優れた研究成果が導けるよう、個々の研究課題に即してきめ細かく指導する。(2) 成績の評価 成績については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。 ①授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。 ②研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。 ③学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。 |
| <p>3. 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）</p> <p>【博士前期課程】 入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 歴史について基本的な知識のある者(2) 史料の解読能力、総合的な思考力・判断能力があり、学修成果を正確に伝えるコミュニケーション能力のある者(3) 歴史研究の基礎となる専門的な知識や歴史学的な研究方法を、主体的に学ぶ意欲のある者 <p>【博士後期課程】 入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 歴史についての基本的な知識、専門とする領域についての専門的な知識のある者(2) 歴史学的な研究方法を修得し、優れた研究能力があり、新たな知見を学界・社会に伝えるコミュニケーション能力のある者(3) 歴史について広い視野と深い学識があり、研究に主体的に取り組む意欲のある者 |

文学研究科教育学専攻

1. 修了の認定及び学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

【博士前期課程】

本研究科・専攻における人材養成に関する目的及び教育研究上の目的を踏まえ、以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限・単位数等を満たし、修士学位論文または特定の課題についての研究の成果（特定課題研究論文）の審査及び最終試験に合格した者に対して、修士の学位を授与する。

- (1) 先行研究の意義、目的、方法を理解し、教育学研究に必要な知識・技能を身につけている。
- (2) 自ら設定したテーマにもとづいて研究計画を立て、新たな知見を付与する研究を遂行し、論文にまとめることができる。
- (3) 広い知識と洞察力、倫理観を備え、教育学研究を通して社会に貢献できる資質や能力を身につけている。

【博士後期課程】

本研究科・専攻における人材養成に関する目的及び教育研究上の目的を踏まえ、以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限を満たし、博士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、博士の学位を授与する。

- (1) 当該分野の研究史に関する深い理解とそれに依拠した研究方法論を身につけている。
- (2) 独自の研究課題にもとづいて研究計画を立て、独創的な知見を付与する研究を遂行し、博士学位論文にまとめることができる。
- (3) 広汎な知識と洞察力、高い倫理観を備え、教育学研究を通して社会に発信し、貢献できる資質や能力を身につけている。

2. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

【博士前期課程】

(1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法

ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目は、「学校教育」「教育心理・相談」「生涯学習」「特別支援教育」の4領域を中心に、それぞれ研究方法論・研究史から最新の研究課題を扱ったものを配列し、少人数の演習形式によって、学生自らが社会的に意義ある研究課題と研究計画を立案・実行できるよう指導する。研究指導は、主指導教授、副指導教授の指導のもと、学生の問題意識・研究関心、職場や地域で抱える課題に即して、改善や解決に資する実践的な研究を行えるよう配慮する。

また、教育職員としての高い専門性をめざす者が所定の単位を修得した場合、中学校教諭（社会）、高等学校教諭（地理歴史・公民）、特別支援学校教諭、小学校教諭 等の教育職員専修免許状を取得することができるよう、免許取得に必要な科目を設置する。

(2) 成績の評価

成績については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。

- ① 授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。
- ② 研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。
- ③ 学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。

【博士後期課程】

(1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法

ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目は、「学校教育」「教育心理・相談」「生涯学習」「特別支援教育」の4領域を中心に、それぞれ研究方法論・研究史から最新の研究課題を扱ったものを配列し、少人数の演習形式によって、学生が独創的で社会的に意義ある研究課題と研究計画を立案・実行できるよう指導する。また研究指導は、主指導教授、副指導教授の指導のもと、学生の問題意識や研究関心、職場や地域で抱える課題、さらには世界的課題に即して、問題解決や改善、社会的提言に資する、高度な研究を行えるよう配慮する。

(2) 成績の評価

成績については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。

- ① 授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。
- ② 研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。
- ③ 学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。

3. 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

【博士前期課程】

入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。

- (1) 教育学や心理学のほか現代の教育問題や関連諸分野についての一般的な知識のある者。
- (2) 文献読解や論文作成、調査など研究に必要な基礎的能力のある者。
- (3) 教育に対する深い関心と広い視野を持ち、真理の探究と研究を通じた社会貢献に対して意欲を持つ者。

【博士後期課程】

入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。

- (1) 教育学や心理学のほか現代の教育問題や関連諸分野についての広範な知識のある者。
- (2) 文献読解や論文作成、調査など研究に必要な能力のある者。
- (3) 教育に対する深い関心と広い視野を持ち、真理の探究と研究を通じた社会貢献に対して高い倫理観と志を持つ者。

| |
|--|
| <p>1. 修了の認定及び学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）</p> |
| <p>【博士前期課程】 以下の資質や能力を身に付けたいうえで、所定の年限・単位数等を満たし、修士学位論文または特定の課題についての研究の成果（特定課題研究論文）の審査及び最終試験に合格した者に対して、修士の学位を授与する。</p> <p>(1) 英語を中心とした多言語領域におけるコミュニケーションについての専門的な知識と運用能力を身に付けている。</p> <p>(2) 欧米や日本の歴史や文学・文化を中心とする、多文化に対する専門的な知識と理解力、異文化と自文化に対する探求心、柔軟で哲学的な思考力を身に付けている。</p> <p>(3) 教育機関や企業・組織などグローバル社会の現場において有効な課題対応能力を身に付けている。</p> <p>(4) 自らの研究計画に基づいて、独創的で社会に貢献する研究を持続しうる能力を身に付けている。</p> <p>【博士後期課程】 以下の資質や能力を身に付けたいうえで、所定の年限・単位数等を満たし、博士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、博士の学位を授与する。</p> <p>(1) 英語を中心とする多言語に対する高度で専門的な知識を身に付けている。</p> <p>(2) グローバルに広がる多言語多文化社会の歴史や文学・文化、社会問題などに対する高度で専門的な知識と深い考察力を身に付けている。</p> <p>(3) 翻訳や通訳など言語コミュニケーションやグローバルな文化研究を行う教育・研究機関で活躍しうる高度な言語運用能力を身に付けている。</p> <p>(4) 言語研究や文学・文化研究に必要な優れた分析能力を身に付けている。</p> <p>(5) 国内外のグローバルな研究・教育機関等で働くうえで必要な研究教育能力、グローバル社会における文化交流や国際的な共同研究に貢献しうる高度な実践力を身に付けている。</p> |
| <p>2. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）</p> |
| <p>【博士前期課程】</p> <p>(1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法 ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目は、言語コミュニケーション、国際文化の2領域にわたって演習科目及び講義科目を効率的に配置する。言語コミュニケーション領域では、言語学やコミュニケーション学など英語を中心として多言語に対する運用能力やコミュニケーションへの理解力、課題適応力、あるいは英語教育や日本語教育など語学に関する専門的な教育・研究能力を養う。また、国際文化領域では、英語圏・ドイツ語圏・フランス語圏や日本、アジアなどの文学や歴史、多様な文化事象を学び、多文化に対する知識と理解力を身に付け、複雑化するグローバル社会の文化や歴史、社会、科学技術等に関する課題を考察し解決する科学的・合理的な能力を養成する。そして本専攻では、両領域からの履修を必須とすることで言語コミュニケーションと国際文化の双方の領域の学問を総合的かつ体系的に学ぶ。そのうえで、各自が専門的な視点から学修を深められるように教授する。研究指導は個々人の研究課題に沿った個別指導を中核として、各課題における研究方針や問題の設定、分析手法、プレゼンテーション技法、論文作成方法などを指導する。</p> <p>(2) 成績の評価 成績については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。</p> <p>①授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。</p> <p>②研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員及び本専攻所属教員により組織的に評価する。</p> <p>③学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。</p> <p>【博士後期課程】</p> <p>(1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法 ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目は、言語コミュニケーション及び国際文化の領域にわたって配置し、各自が専門領域における研究を深め、高度で専門的な実践力を身に付けられるように最新の研究課題や研究理論、研究方法を教授する。研究指導は、大学院生個々の研究テーマに沿った個別指導を中核として、博士学位を取得すべく、個々の研究テーマにおける高度で専門的な研究方針や問題の設定、分析手法、プレゼンテーション技法、論文作成方法などを指導する。</p> <p>(2) 成績の評価 成績については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。</p> <p>①授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。</p> <p>②研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員及び本専攻所属教員により組織的に評価する。</p> <p>③学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。</p> |

3. 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

【博士前期課程】

入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学希望者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。

- (1) 英語をはじめとする外国語の基本的な運用能力を有し、かつ一層の向上を目指す意欲のある者。
- (2) 多言語多文化に対する基礎的な知識を有し、かつ一層の探究心を有する者。
- (3) 国際社会の中で活躍するための積極的で柔軟な適応能力を有する者。

【博士後期課程】

入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学希望者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。

- (1) 読解力、会話力、表現力、思考力などにおいて、外国語による高度な運用能力を有する者。
- (2) 多言語多文化に対する専門的知識と理解力を有する者。
- (3) 国際社会の中で活躍しうる自律的な研究能力と実践力を有する者。

別表第3 教育課程（第4条関係）

省略する。

別表第4 修了に必要な単位等（第5条関係）

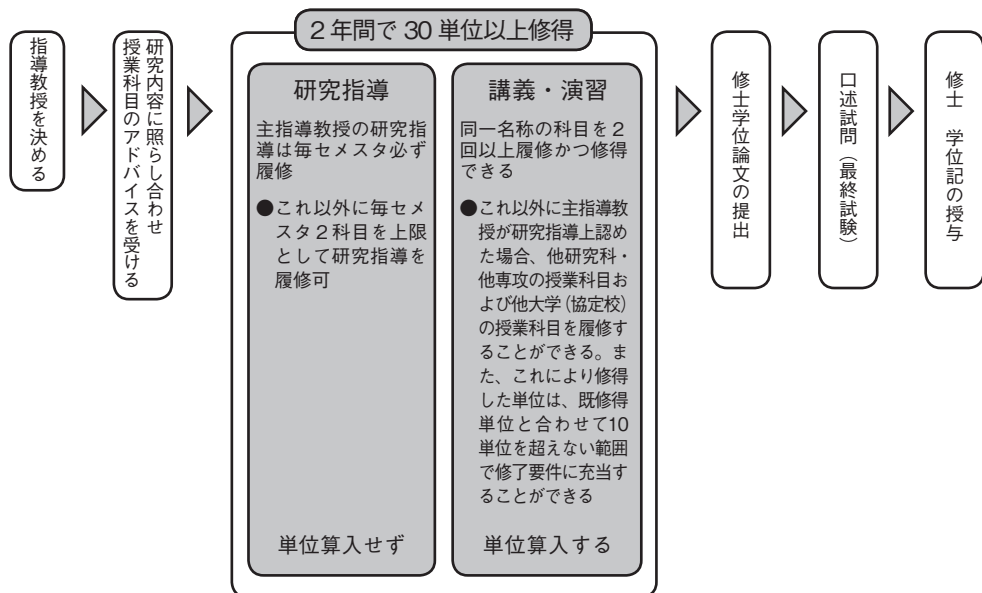
省略する。

別表第5 教育職員の免許状取得のための授業科目及び単位数（第7条関係）

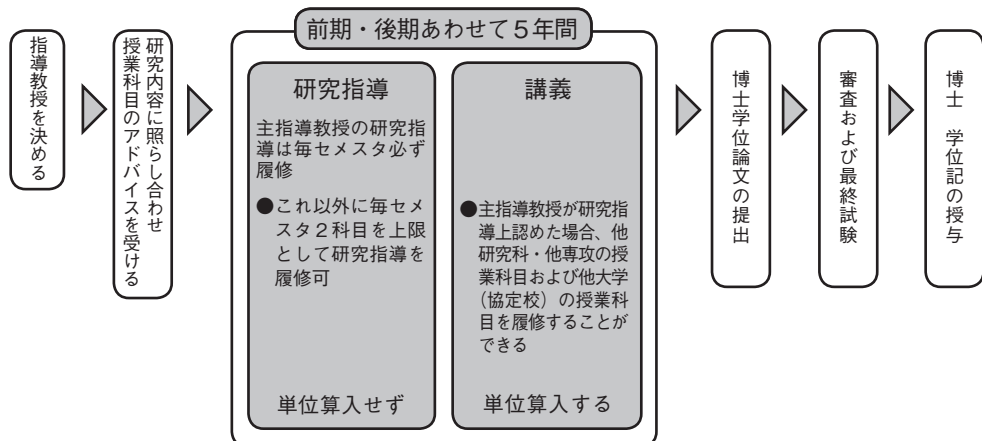
省略する。

哲学専攻

前期課程 履修の流れ



後期課程 履修の流れ



※本専攻では、授業内容の理解や自身の研究を一層深めるために、授業及び研究指導の一環として、海外における調査・研究や学会への参加・発表を奨励しています。

哲学専攻

博士前期課程

| 授業科目・研究指導 | 単位 | 科目 ナンバリング | 学期 | 講義・ 演習の別 | 担当教員 | 備考 |
|------------|----|--------------|----|-------------|-------------|-----------------|
| 哲学特論 A | 2 | PHE601 | 春秋 | 講義 | 大河内 泰樹 | |
| 哲学特論 B | 2 | PHE602 | 春秋 | 講義 | 大河内 泰樹 | |
| 哲学演習 A | 2 | PHE603 | 春秋 | 演習 | 稲垣 論 | 哲学研究指導Ⅵ A/B と共通 |
| 哲学演習 B | 2 | PHE604 | 春秋 | | | |
| 古代中世哲学研究 A | 2 | PHE605 | 春秋 | 講義 | 松浦 和也 | 哲学研究指導Ⅴ A/B と共通 |
| 古代中世哲学研究 B | 2 | PHE606 | 春秋 | 講義 | 松浦 和也 | 哲学研究指導Ⅴ A/B と共通 |
| 古代中世哲学演習 A | 2 | PHE607 | 春秋 | 演習 | 矢内 義顕 | |
| 古代中世哲学演習 B | 2 | PHE608 | 春秋 | | | |
| 近世哲学研究 A | 2 | PHE609 | 春秋 | 講義 | 三重野 清顕 | 哲学研究指導Ⅳ A/B と共通 |
| 近世哲学研究 B | 2 | PHE610 | 春秋 | | | |
| 近世哲学演習Ⅰ A | 2 | PHE611 | 春秋 | 演習 | 土屋 俊 | |
| 近世哲学演習Ⅰ B | 2 | PHE612 | 春秋 | | | |
| 近世哲学演習Ⅱ A | 2 | PHE613 | | 演習 | | 本年度休講 |
| 近世哲学演習Ⅱ B | 2 | PHE614 | | | | |
| 現代哲学研究 A | 2 | PHE615 | 春秋 | 講義 | ゼーベル シュテファン | |
| 現代哲学研究 B | 2 | PHE616 | 春秋 | | | |
| 現代哲学演習Ⅰ A | 2 | PHE617 | 春秋 | 演習 | 永井 晋 | 哲学研究指導Ⅲ A/B と共通 |
| 現代哲学演習Ⅰ B | 2 | PHE618 | 春秋 | | | |
| 現代哲学演習Ⅱ A | 2 | PHE619 | 春秋 | 演習 | 河本 英夫 | 哲学研究指導Ⅷ A/B と共通 |
| 現代哲学演習Ⅱ B | 2 | PHE620 | 春秋 | | | |
| 論理学特論 A | 2 | PHE621 | 春秋 | 講義 | 土屋 俊 | |
| 論理学特論 B | 2 | PHE622 | 春秋 | | | |
| 倫理学特論 A | 2 | PHE623 | 春秋 | 講義 | 中里 巧 | 哲学研究指導Ⅰ A/B と共通 |
| 倫理学特論 B | 2 | PHE624 | 春秋 | | | |
| 比較哲学特論 A | 2 | PHE625 | 春秋 | 講義 | 相楽 勉 | 哲学研究指導Ⅱ A/B と共通 |
| 比較哲学特論 B | 2 | PHE626 | 春秋 | | | |
| 中国哲学研究 A | 2 | CIB603 | | 講義 | | 本年度休講 |
| 中国哲学研究 B | 2 | CIB604 | | | | |
| 日本哲学特論 A | 2 | PHE627 | | 講義 | | 本年度休講 |
| 日本哲学特論 B | 2 | PHE628 | | | | |
| 日本哲学演習 A | 2 | PHE629 | | 演習 | | 本年度休講 |
| 日本哲学演習 B | 2 | PHE630 | | | | |
| 現代哲学特殊演習① | 2 | PHE631 | 秋 | 演習 | 高野 孝 | 集中講義 |
| 現代哲学特殊演習② | 2 | PHE632 | 春 | 演習 | 黒田 昭信 | 集中講義 |
| 実践哲学特論 A | 2 | PHE633 | 春秋 | 講義 | 阿部 又一郎 | |
| 実践哲学特論 B | 2 | PHE634 | 春秋 | | | |

| 授業科目・研究指導 | 単位 | 科目 ナンバリング | 学期 | 講義・ 演習の別 | 担当教員 | 備考 |
|---------------|----|--------------|----|-------------|---------|-------|
| 哲学研究指導 I A | | REG601 | 春 | | 中里 巧 | |
| 哲学研究指導 I B | | REG602 | 秋 | | | |
| 哲学研究指導 II A | | REG603 | 春 | | 相楽 勉 | |
| 哲学研究指導 II B | | REG604 | 秋 | | | |
| 哲学研究指導 III A | | REG605 | 春 | | 永井 晋 | |
| 哲学研究指導 III B | | REG606 | 秋 | | | |
| 哲学研究指導 IV A | | REG607 | 春 | | 三重野 清 顕 | |
| 哲学研究指導 IV B | | REG608 | 秋 | | | |
| 哲学研究指導 V A | | REG609 | 春 | | 松浦 和也 | |
| 哲学研究指導 V B | | REG610 | 秋 | | | |
| 哲学研究指導 VI A | | REG611 | 春 | | 稲垣 諭 | |
| 哲学研究指導 VI B | | REG612 | 秋 | | | |
| 哲学研究指導 VII A | | REG613 | | | | 本年度休講 |
| 哲学研究指導 VII B | | REG614 | | | | |
| 哲学研究指導 VIII A | | REG615 | 春 | | 河本 英夫 | |
| 哲学研究指導 VIII B | | REG616 | 秋 | | | |

修了に必要な単位等

- 1) 修了要件となる科目で30単位以上修得すること。
- 2) 主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。

履修方法

1. 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
2. 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修・修得することができる（各研究指導は、指定された講義または演習において行う）。
3. 「講義」または「演習」は、同一科目を在学中2回以上履修・単位修得することができる。修得した単位は、修了要件の単位に充当する。
4. 本表に掲げたものの他、指導教授が教育上必要と認めるときは、学則第8条に基づき、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる（同一科目は1回目のみ修了要件として扱い、2回目以降の履修によって修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない）。また、上記により履修し修得した単位は、学則第10条の2に基づく、本大学院に入学する前に修得し、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなす単位（既修得単位）と合わせて、10単位を超えない範囲で修了要件に充当することができる。

博士後期課程

| 2015年度以降入学生適用 | | | | 講義・演習の別 | 担当教員 | 備考 |
|---------------|----------|----|----|---------|--------------------|----|
| 単位 | 科目ナンバリング | 学期 | | | | |
| 哲学特殊研究 I A | 2 PHE701 | 春秋 | 講義 | 河本英夫 | 哲学研究指導 I A/B と共通 | |
| 哲学特殊研究 I B | 2 PHE702 | | | | | |
| 哲学特殊研究 II A | 2 PHE703 | 春秋 | 講義 | 中里 巧 | 哲学研究指導 II A/B と共通 | |
| 哲学特殊研究 II B | 2 PHE704 | | | | | |
| 哲学特殊研究 III A | 2 PHE705 | 春秋 | 講義 | 稲垣 諭 | 哲学研究指導 III A/B と共通 | |
| 哲学特殊研究 III B | 2 PHE706 | | | | | |
| 哲学特殊研究 IV A | 2 PHE707 | 春秋 | 講義 | 三重野 清 顕 | 哲学研究指導 IV A/B と共通 | |
| 哲学特殊研究 IV B | 2 PHE708 | | | | | |
| 哲学特殊研究 V A | 2 PHE709 | | 講義 | | 本年度休講 | |
| 哲学特殊研究 V B | 2 PHE710 | | | | | |
| 哲学特殊研究 VI A | 2 PHE711 | 春秋 | 講義 | 大河内 泰 樹 | | |
| 哲学特殊研究 VI B | 2 PHE712 | | | | | |
| 哲学特殊研究 VII A | 2 PHE713 | 春秋 | 講義 | 永井 晋 | 哲学研究指導 VI A/B と共通 | |
| 哲学特殊研究 VII B | 2 PHE714 | | | | | |
| 哲学特殊研究 VIII A | 2 PHE715 | 春秋 | 講義 | 相楽 勉 | | |
| 哲学特殊研究 VIII B | 2 PHE716 | | | | | |
| 哲学特殊研究 IX A | 2 PHE717 | 春秋 | 講義 | 松浦 和也 | 哲学研究指導 V A/B と共通 | |
| 哲学特殊研究 IX B | 2 PHE718 | | | | | |
| 哲学研究指導 I A | REG701 | 春秋 | | 河本英夫 | | |
| 哲学研究指導 I B | REG702 | | | | | |
| 哲学研究指導 II A | REG703 | 春秋 | | 中里 巧 | | |
| 哲学研究指導 II B | REG704 | | | | | |
| 哲学研究指導 III A | REG705 | 春秋 | | 稲垣 諭 | | |
| 哲学研究指導 III B | REG706 | | | | | |
| 哲学研究指導 IV A | REG707 | 春秋 | | 三重野 清 顕 | | |
| 哲学研究指導 IV B | REG708 | | | | | |
| 哲学研究指導 V A | REG709 | 春秋 | | 松浦 和也 | | |
| 哲学研究指導 V B | REG710 | | | | | |
| 哲学研究指導 VI A | REG711 | 春秋 | | 永井 晋 | | |
| 哲学研究指導 VI B | REG712 | | | | | |

修了に必要な単位等

主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。

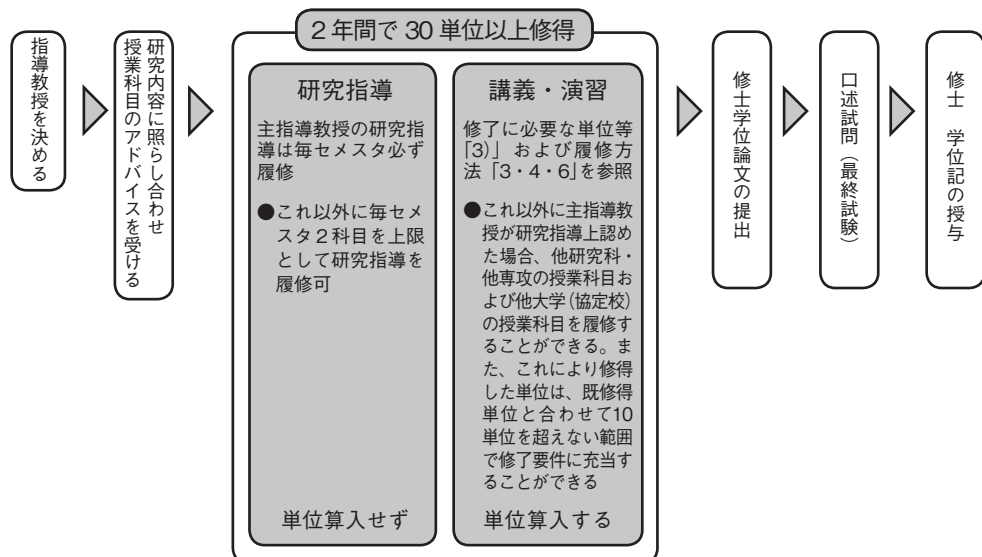
履修方法

- 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
- 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目(主指導教授1名・副指導教授2名)を上限として、履修・修得することができる(研究指導は、指定された講義において行う)。
- 本表に掲げたものの他、指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学(協定校)の授業科目を履修することができる。

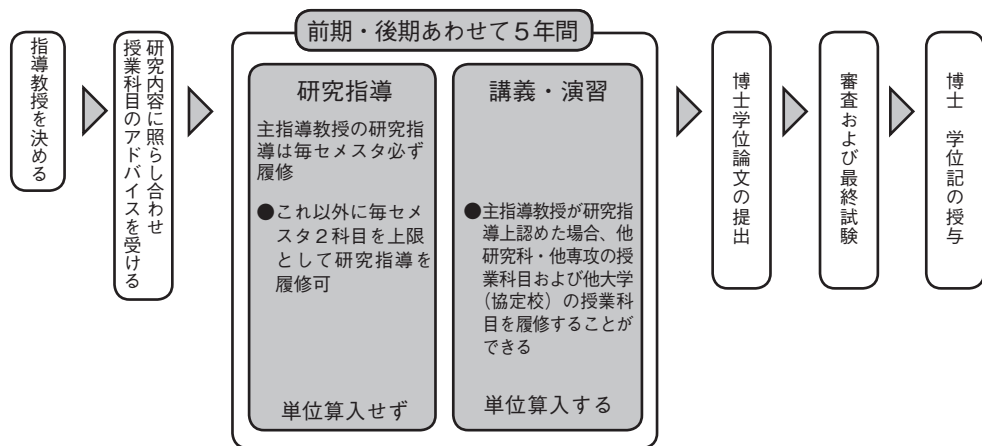
注) 通年制の学生は、「セメスタ」を「年度」と読み替えること。

インド哲学仏教学専攻

前期課程 履修の流れ



後期課程 履修の流れ



ただし、2014年度以前入学生についてはセメスタを年度に読み替える
 ※本専攻では、授業内容の理解や自身の研究を一層深めるために、授業及び研究指導の一環として、海外における調査・研究や学会への参加・発表を奨励しています。

インド哲学仏教学専攻

博士前期課程

| 授業科目・研究指導 | 単位 | 科目 ナンバリング | 学期 | 講義・ 演習 の別 | 担当教員 | 備考 |
|---------------|----|--------------|----|-----------------|-------|------------------|
| インド哲学研究ⅠA | 2 | CIB601 | 春 | 講義 | 沼田一郎 | インド哲学研究指導ⅡA/Bと共通 |
| インド哲学研究ⅠB | 2 | CIB602 | 秋 | 演習 | | |
| インド哲学研究ⅡA | 2 | CIB603 | 春 | 講義 | 橋本泰元 | インド哲学研究指導ⅢA/Bと共通 |
| インド哲学研究ⅡB | 2 | CIB604 | 秋 | 演習 | | |
| インド哲学研究ⅢA | 2 | CIB605 | | 講義 | | 本年度休講 |
| インド哲学研究ⅢB | 2 | CIB606 | | 演習 | | |
| インド哲学研究ⅣA | 2 | CIB607 | 春 | 講義 | 高島淳 | |
| インド哲学研究ⅣB | 2 | CIB608 | 秋 | 演習 | | |
| インド哲学研究ⅤA | 2 | CIB609 | | 講義 | | 本年度休講 |
| インド哲学研究ⅤB | 2 | CIB610 | | 演習 | | |
| インド仏教研究ⅠA | 2 | CIB611 | 春 | 講義 | 岩井昌悟 | 仏教学研究指導ⅢA/Bと共通 |
| インド仏教研究ⅠB | 2 | CIB612 | 秋 | 演習 | | |
| インド仏教研究ⅡA | 2 | CIB613 | 春 | 講義 | 松村淳子 | |
| インド仏教研究ⅡB | 2 | CIB614 | 秋 | 演習 | | |
| インド仏教研究ⅢA | 2 | CIB615 | 春 | 講義 | 渡辺章悟 | 仏教学研究指導ⅠA/Bと共通 |
| インド仏教研究ⅢB | 2 | CIB616 | 秋 | 演習 | | |
| インド仏教研究ⅣA | 2 | CIB617 | 春 | 講義 | 山口しのぶ | 仏教学研究指導ⅡA/Bと共通 |
| インド仏教研究ⅣB | 2 | CIB618 | 秋 | 演習 | | |
| インド仏教研究ⅤA | 2 | CIB619 | 春 | 講義 | 田中公明 | |
| インド仏教研究ⅤB | 2 | CIB620 | 秋 | 演習 | | |
| 東アジア仏教研究ⅠA | 2 | CIB621 | 春 | 講義 | 伊吹敦 | 仏教学研究指導ⅣA/Bと共通 |
| 東アジア仏教研究ⅠB | 2 | CIB622 | 秋 | 演習 | | |
| 東アジア仏教研究ⅡA | 2 | CIB623 | 春 | 講義 | 蓑輪顕量 | 隔年開講 |
| 東アジア仏教研究ⅡB | 2 | CIB624 | 秋 | 演習 | | |
| 東アジア仏教研究ⅢA | 2 | CIB625 | 春 | 講義 | 林田康順 | |
| 東アジア仏教研究ⅢB | 2 | CIB626 | 秋 | 演習 | | |
| 東アジア仏教研究ⅣA | 2 | CIB627 | | 講義 | | 本年度休講 隔年開講 |
| 東アジア仏教研究ⅣB | 2 | CIB628 | | 演習 | | |
| インド哲学仏教学特殊演習A | 2 | CIB629 | 春 | 演習 | 伊藤真 | |
| インド哲学仏教学特殊演習B | 2 | CIB630 | 秋 | 演習 | | |

| 授業科目・研究指導 | 単位 | 科目 ナンバリング | 学期 | 講義・ 演習の 別 | 担当教員 | 備考 |
|-------------|----|--------------|----|-----------------|-------|-------|
| インド哲学研究指導ⅠA | | REG601 | | | | 本年度休講 |
| インド哲学研究指導ⅠB | | REG602 | | | | |
| インド哲学研究指導ⅡA | | REG603 | 春秋 | | 沼田一郎 | |
| インド哲学研究指導ⅡB | | REG604 | | | | |
| インド哲学研究指導ⅢA | | REG605 | 春秋 | | 橋本泰元 | |
| インド哲学研究指導ⅢB | | REG606 | | | | |
| 仏教学研究指導ⅠA | | REG607 | 春秋 | | 渡辺章悟 | |
| 仏教学研究指導ⅠB | | REG608 | | | | |
| 仏教学研究指導ⅡA | | REG609 | 春秋 | | 山口しのぶ | |
| 仏教学研究指導ⅡB | | REG610 | | | | |
| 仏教学研究指導ⅢA | | REG611 | 春秋 | | 岩井昌悟 | |
| 仏教学研究指導ⅢB | | REG612 | | | | |
| 仏教学研究指導ⅣA | | REG613 | 春秋 | | 伊吹敦 | |
| 仏教学研究指導ⅣB | | REG614 | | | | |

修了に必要な単位等

- 1) 修了要件となる科目で30単位以上修得すること。
- 2) 主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。
- 3) 「講義」及び「演習」を、在学中それぞれ2単位以上履修・単位修得すること。

履修方法

1. 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
2. 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修・修得することができる（各研究指導は、指定された講義または演習において行う）。
3. 主指導教授が担当する「講義」および「演習」は、同一科目を在学中何回でも履修・単位修得することができる。ただし、3回目以降（長期履修学生および原級した場合等）の履修によって修得した成績及び、単位は認定されるが、修了要件としては扱わない。なお、ここで対象とする「講義」または「演習」は、研究指導と共通して開講されるものに限る。
4. 履修方法3以外の「講義」および「演習」は、在学中1回のみ履修・単位修得することができる。
5. 本表に掲げたものの他、指導教授が教育上必要と認めるときは、学則第8条に基づき、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる（同一科目は1回目のみ修了要件として扱い、2回目以降の履修によって修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない）。また、上記により履修し修得した単位は、学則第10条の2に基づく、本大学院に入学する前に修得し、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなす単位（既修得単位）と合わせて、10単位を超えない範囲で修了要件に充当することができる。
6. 本専攻では、駒澤大学大学院、大正大学大学院、立正大学大学院、武蔵野大学大学院、国際仏教学大学院大学との間に相互単位履修制度を設けている。詳細は p.58を参照すること。

博士後期課程

| 授業科目・研究指導 | | | | | | | 講義・演習の別 | 担当教員 | 備考 | | | |
|------------|---------------|----|---------------|----|--------------|----|---------|-------|-------|------------------|------------------|----------------|
| 領域 | 2014年度以前入学生適用 | 単位 | 2015年度以降入学生適用 | 単位 | 組 ナ/バ/リ/フ | 学期 | | | | | | |
| インド哲学領域 | インド哲学特殊研究Ⅰ | 4 | インド哲学特殊研究ⅠA | 2 | CIB701 | | 講義 | 橋本泰元 | 本年度休講 | | | |
| | | | インド哲学特殊研究ⅠB | 2 | CIB702 | | 演習 | | | | | |
| | インド哲学特殊研究Ⅱ | 4 | インド哲学特殊研究ⅡA | 2 | CIB703 | 春 | 講義 | | 沼田一郎 | インド哲学研究指導ⅡA/Bと共通 | | |
| | | | インド哲学特殊研究ⅡB | 2 | CIB704 | 秋 | 演習 | | | | | |
| | インド哲学特殊研究Ⅲ | 4 | インド哲学特殊研究ⅢA | 2 | CIB705 | 春 | 講義 | | | 渡辺章悟 | インド哲学研究指導ⅢA/Bと共通 | |
| | | | インド哲学特殊研究ⅢB | 2 | CIB706 | 秋 | 演習 | | | | | |
| 仏教学領域 | 仏教学特殊研究Ⅰ | 4 | 仏教学特殊研究ⅠA | 2 | CIB707 | 春 | 講義 | 山口しのぶ | | | 仏教学研究指導ⅠA/Bと共通 | |
| | | | 仏教学特殊研究ⅠB | 2 | CIB708 | 秋 | 演習 | | | | | |
| | 仏教学特殊研究Ⅱ | 4 | 仏教学特殊研究ⅡA | 2 | CIB709 | 春 | 講義 | | 伊吹敦 | | 仏教学研究指導ⅡA/Bと共通 | |
| | | | 仏教学特殊研究ⅡB | 2 | CIB710 | 秋 | 演習 | | | | | |
| | 仏教学特殊研究Ⅲ | 4 | 仏教学特殊研究ⅢA | 2 | CIB711 | 春 | 講義 | | | 岩井昌悟 | 仏教学研究指導ⅣA/Bと共通 | |
| | | | 仏教学特殊研究ⅢB | 2 | CIB712 | 秋 | 演習 | | | | | |
| | 仏教学特殊研究Ⅳ | 4 | 仏教学特殊研究ⅣA | 2 | CIB713 | 春 | 講義 | | | | 伊吹敦 | 仏教学研究指導ⅢA/Bと共通 |
| | | | 仏教学特殊研究ⅣB | 2 | CIB714 | 秋 | 演習 | | | | | |
| インド哲学研究指導Ⅰ | | | インド哲学研究指導ⅠA | | REG701 | | | 橋本泰元 | | | | 本年度休講 |
| | | | インド哲学研究指導ⅠB | | REG702 | | | | | | | |
| インド哲学研究指導Ⅱ | | | インド哲学研究指導ⅡA | | REG703 | 春 | | 沼田一郎 | | | | |
| | | | インド哲学研究指導ⅡB | | REG704 | 秋 | | | | | | |
| インド哲学研究指導Ⅲ | | | インド哲学研究指導ⅢA | | REG705 | 春 | | 渡辺章悟 | | | | |
| | | | インド哲学研究指導ⅢB | | REG706 | 秋 | | | | | | |
| 仏教学研究指導Ⅰ | | | 仏教学研究指導ⅠA | | REG707 | 春 | | 山口しのぶ | | | | |
| | | | 仏教学研究指導ⅠB | | REG708 | 秋 | | | | | | |
| 仏教学研究指導Ⅱ | | | 仏教学研究指導ⅡA | | REG709 | 春 | | 岩井昌悟 | | | | |
| | | | 仏教学研究指導ⅡB | | REG710 | 秋 | | | | | | |
| 仏教学研究指導Ⅲ | | | 仏教学研究指導ⅢA | | REG711 | 春 | | 伊吹敦 | | | | |
| | | | 仏教学研究指導ⅢB | | REG712 | 秋 | | | | | | |
| 仏教学研究指導Ⅳ | | | 仏教学研究指導ⅣA | | REG713 | 春 | | | | | | |
| | | | 仏教学研究指導ⅣB | | REG714 | 秋 | | | | | | |

修了に必要な単位等

主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。

履修方法

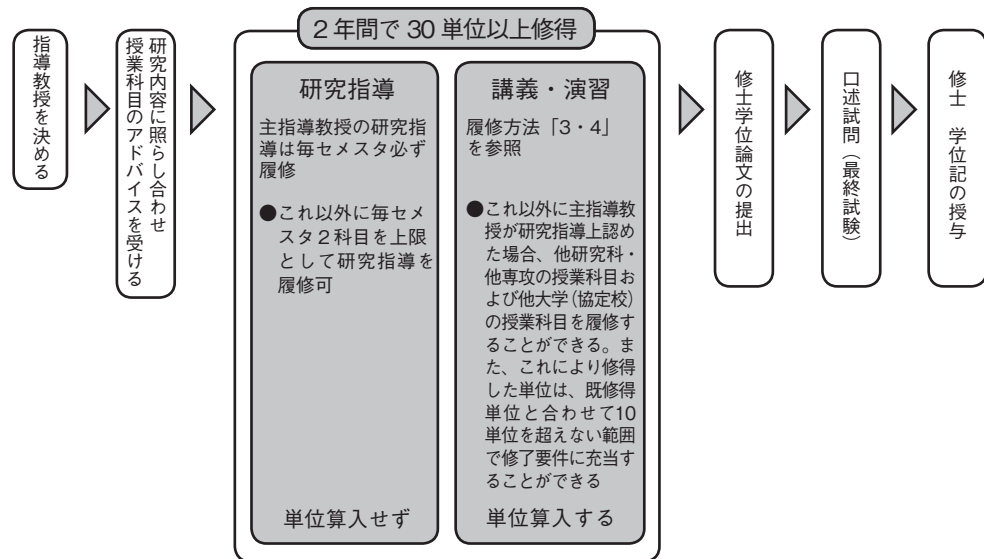
- 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
- 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修・修得することができる（各研究指導は、指定された講義または演習において行う）。
- 本表に掲げたものの他、指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる。
- 本専攻では、駒澤大学大学院、大正大学大学院、立正大学大学院、武蔵野大学大学院、国際仏教学大学院大学との間に相互単位履修制度を設けている。詳細は p.58を参照すること。

注) 通年制の学生は、「セメスタ」を「年度」と読み替えること。

日本文学文化専攻

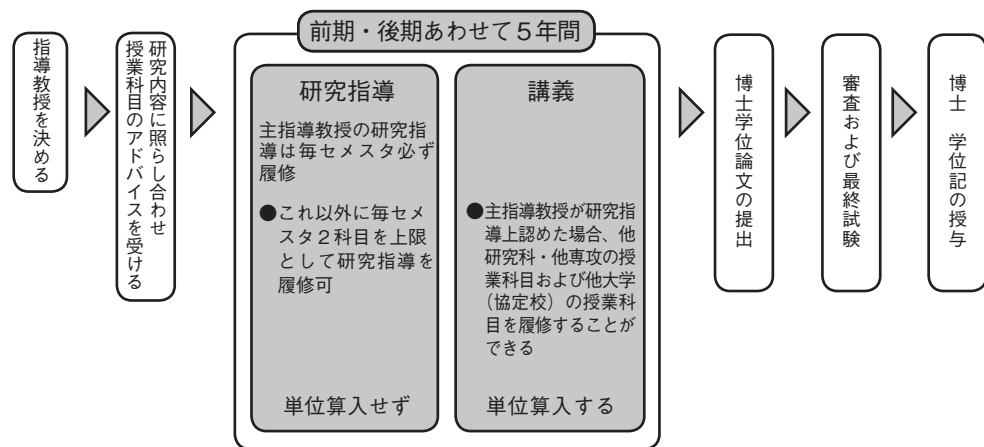
前期課程

履修の流れ



後期課程

履修の流れ



※本専攻では、授業内容の理解や自身の研究を一層深めるために、授業及び研究指導の一環として、海外における調査・研究や学会への参加・発表を奨励しています。

日本文学文化専攻

博士前期課程

| 授業科目・研究指導 | サブタイトル | 単位 | 組 ナンバリング | 学期 | 講義・ 演習の別 | 担当教員 | 備考 |
|-----------------|---------|----|-------------|----|-------------|-------|---------------------------|
| 研究基礎論 A | 現代語 | 2 | JLN609 | 春 | 講義 | 堀 恵子 | |
| 研究基礎論 B | 現代語 | 2 | JLN610 | 秋 | 講義 | | |
| 日本文学文化特論 I A | 近現代 | 2 | JLT601 | | 講義 | | 本年度休講 |
| 日本文学文化特論 I B | 近現代 | 2 | JLT602 | | 講義 | | |
| 日本文学文化特論 II A | 近現代 | 2 | JLT603 | 春 | 講義 | 山田吉郎 | |
| 日本文学文化特論 II B | 近現代 | 2 | JLT604 | 秋 | 講義 | | |
| 日本文学文化特論 III A | 近世 | 2 | JLT605 | | 講義 | | 本年度休講 |
| 日本文学文化特論 III B | 近世 | 2 | JLT606 | | 講義 | | |
| 日本文学文化特論 IV A | 中世 | 2 | JLT607 | 春 | 講義 | 原田香織 | 日本文学文化研究指導 IX A / B と共通 |
| 日本文学文化特論 IV B | 中世 | 2 | JLT608 | 秋 | 講義 | | |
| 日本文学文化特論 V A | 中古 | 2 | JLT609 | | 講義 | | 本年度休講 |
| 日本文学文化特論 V B | 中古 | 2 | JLT610 | | 講義 | | |
| 日本文学文化特論 VI A | 上代 | 2 | JLT611 | | 講義 | | 本年度休講 |
| 日本文学文化特論 VI B | 上代 | 2 | JLT612 | | 講義 | | |
| 日本語学特論 I A | 古典語 | 2 | JLN601 | 春 | 講義 | 阿久澤 忠 | |
| 日本語学特論 I B | 古典語 | 2 | JLN602 | 秋 | 講義 | | |
| 日本語学特論 II A | 現代語 | 2 | JLN603 | | 講義 | | 本年度休講 |
| 日本語学特論 II B | 現代語 | 2 | JLN604 | | 講義 | | |
| 日本文学文化演習 I A | 近世 | 2 | JLT613 | 春 | 演習 | 高松亮太 | 日本文学文化研究指導 I A / B と共通 |
| 日本文学文化演習 I B | 近世 | 2 | JLT614 | 秋 | 演習 | | |
| 日本文学文化演習 II A | 中世 | 2 | JLT615 | 春 | 演習 | 高柳祐子 | 日本文学文化研究指導 X A / B と共通 |
| 日本文学文化演習 II B | 中世 | 2 | JLT616 | 秋 | 演習 | | |
| 日本文学文化演習 III A | 近世 | 2 | JLT617 | | 演習 | | 本年度休講 |
| 日本文学文化演習 III B | 近世 | 2 | JLT618 | | 演習 | | |
| 日本文学文化演習 IV A | 近現代 | 2 | JLT619 | 春 | 演習 | 野呂芳信 | 日本文学文化研究指導 IV A / B と共通 |
| 日本文学文化演習 IV B | 近現代 | 2 | JLT620 | 秋 | 演習 | | |
| 日本文学文化演習 V A | 近現代 | 2 | JLT621 | 春 | 演習 | 山本亮介 | 日本文学文化研究指導 V A / B と共通 |
| 日本文学文化演習 V B | 近現代 | 2 | JLT622 | 秋 | 演習 | | |
| 日本文学文化演習 VI A | 中古 | 2 | JLT623 | | 演習 | | 本年度休講 |
| 日本文学文化演習 VI B | 中古 | 2 | JLT624 | | 演習 | | |
| 日本文学文化演習 VII A | 近現代 | 2 | JLT625 | | 演習 | | 本年度休講 |
| 日本文学文化演習 VII B | 近現代 | 2 | JLT626 | | 演習 | | |
| 日本文学文化演習 VIII A | 上代 | 2 | JLT627 | 春 | 演習 | 菊地義裕 | 日本文学文化研究指導 VIII A / B と共通 |
| 日本文学文化演習 VIII B | 上代 | 2 | JLT628 | 秋 | 演習 | | |
| 日本語学演習 I A | 古典語 | 2 | JLN605 | | 演習 | | 本年度休講 |
| 日本語学演習 I B | 古典語 | 2 | JLN606 | | 演習 | | |
| 日本語学演習 II A | 現代語 | 2 | JLN607 | 春 | 演習 | 木村 一 | 日本語学研究指導 II A / B と共通 |
| 日本語学演習 II B | 現代語 | 2 | JLN608 | 秋 | 演習 | | |
| 日本美術史 A | 日本美術の諸相 | 2 | FAH601 | 春 | 講義 | 荒井雄三 | |
| 日本美術史 B | 日本美術の諸相 | 2 | FAH602 | 秋 | 講義 | | |
| 比較文学 A | 日中比較 | 2 | LIG601 | 春 | 講義 | 有澤晶子 | 日本文学文化研究指導 II A / B と共通 |
| 比較文学 B | 日中比較 | 2 | LIG602 | 秋 | 講義 | | |
| 中国文学特論 A | 中国古典と訓読 | 2 | CHL601 | 春 | 講義 | 合山林太郎 | |
| 中国文学特論 B | 中国古典と訓読 | 2 | CHL602 | 秋 | 講義 | | |

| 授業科目・研究指導 | サブタイトル | 単 位 | 相 ナ バ ン グ | 学 期 | 講 義・ 演 習 の 別 | 担当教員 | 備考 |
|--------------|-----------|--------|-----------------------|--------|-----------------------------|-------|-------|
| 日本文学文化研究指導ⅠA | 近世文学文化研究 | REG601 | | 春 | | 高松 亮太 | |
| 日本文学文化研究指導ⅠB | 近世文学文化研究 | REG602 | | 秋 | | | |
| 日本文学文化研究指導ⅡA | 比較文学文化研究 | REG603 | | 春 | | 有澤 晶子 | |
| 日本文学文化研究指導ⅡB | 比較文学文化研究 | REG604 | | 秋 | | | |
| 日本文学文化研究指導ⅢA | 近世文学文化研究 | REG605 | | | | | 本年度休講 |
| 日本文学文化研究指導ⅢB | 近世文学文化研究 | REG606 | | | | | |
| 日本文学文化研究指導ⅣA | 近現代文学文化研究 | REG607 | | 春 | | 野呂 芳信 | |
| 日本文学文化研究指導ⅣB | 近現代文学文化研究 | REG608 | | 秋 | | | |
| 日本文学文化研究指導ⅤA | 近現代文学文化研究 | REG609 | | 春 | | 山本 亮介 | |
| 日本文学文化研究指導ⅤB | 近現代文学文化研究 | REG610 | | 秋 | | | |
| 日本文学文化研究指導ⅥA | 中古文学文化研究 | REG611 | | | | | 本年度休講 |
| 日本文学文化研究指導ⅥB | 中古文学文化研究 | REG612 | | | | | |
| 日本文学文化研究指導ⅦA | 近現代文学文化研究 | REG613 | | | | | 本年度休講 |
| 日本文学文化研究指導ⅦB | 近現代文学文化研究 | REG614 | | | | | |
| 日本文学文化研究指導ⅧA | 上代文学文化研究 | REG615 | | 春 | | 菊地 義裕 | |
| 日本文学文化研究指導ⅧB | 上代文学文化研究 | REG616 | | 秋 | | | |
| 日本文学文化研究指導ⅨA | 中世文学文化研究 | REG617 | | 春 | | 原田 香織 | |
| 日本文学文化研究指導ⅨB | 中世文学文化研究 | REG618 | | 秋 | | | |
| 日本文学文化研究指導ⅩA | 中世文学文化研究 | REG625 | | 春 | | 高柳 祐子 | |
| 日本文学文化研究指導ⅩB | 中世文学文化研究 | REG626 | | 秋 | | | |
| 日本語学研究指導ⅠA | 古典語研究 | REG619 | | | | | 本年度休講 |
| 日本語学研究指導ⅠB | 古典語研究 | REG620 | | | | | |
| 日本語学研究指導ⅡA | 現代語研究 | REG621 | | 春 | | 木村 一 | |
| 日本語学研究指導ⅡB | 現代語研究 | REG622 | | 秋 | | | |
| 日本語学研究指導ⅢA | 現代語研究 | REG623 | | | | | 本年度休講 |
| 日本語学研究指導ⅢB | 現代語研究 | REG624 | | | | | |

修了に必要な単位等

- 1) 修了要件となる科目で30単位以上修得すること。
- 2) 主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。

履修方法

1. 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
2. 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修・修得することができる（各研究指導は、指定された講義または演習において行う）。
3. 主指導教授が担当する「講義」または「演習」は、同一科目を在学中何回でも履修・単位修得することができる。ただし、3回目以降（長期履修学生および原級した場合等）の履修によって修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない。なお、ここで対象とする「講義」または「演習」は、「研究指導」と共通して開講されるものに限る。
4. 履修方法3以外の「講義」または「演習」は、在学中1回のみ履修・単位修得することができる。
5. 本表に掲げたものの他、指導教授が教育上必要と認めるときは、学則第8条に基づき、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる（同一科目は1回目のみ修了要件として扱い、2回目以降の履修によって修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない）。また、上記により履修し修得した単位は、学則第10条の2に基づく、本大学院に入学する前に修得し、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなす単位（既修得単位）と合わせて、10単位を超えない範囲で修了要件に充当することができる。

博士後期課程

| 授業科目・研究指導 | サブタイトル | 単 位 | 科目 ナンバリング | 学 期 | 講義・ 演習の別 | 担当教員 | 備考 |
|---------------|---------|--------|--------------|--------|-------------|---------|-----------------------|
| 日本文学文化特殊研究ⅠA | 日 中 比 較 | 2 | JLT701 | 春 | 講義 | 有 澤 晶 子 | 日本文学文化研究指導ⅡA/B と共通 |
| 日本文学文化特殊研究ⅠB | 日 中 比 較 | 2 | JLT702 | 秋 | 講義 | | |
| 日本文学文化特殊研究ⅡA | 近 現 代 | 2 | JLT703 | 春 | 講義 | 山 田 吉 郎 | |
| 日本文学文化特殊研究ⅡB | 近 現 代 | 2 | JLT704 | 秋 | 講義 | | |
| 日本文学文化特殊研究ⅢA | 中 世 | 2 | JLT705 | | 講義 | | 本年度休講 |
| 日本文学文化特殊研究ⅢB | 中 世 | 2 | JLT706 | | 講義 | | |
| 日本文学文化特殊研究ⅣA | 中 世 | 2 | JLT707 | 春 | 講義 | 原 田 香 織 | 日本文学文化研究指導ⅨA/B と共通 |
| 日本文学文化特殊研究ⅣB | 中 世 | 2 | JLT708 | 秋 | 講義 | | |
| 日本文学文化特殊研究ⅤA | 中 古 | 2 | JLT709 | | 講義 | | 本年度休講 |
| 日本文学文化特殊研究ⅤB | 中 古 | 2 | JLT710 | | 講義 | | |
| 日本文学文化特殊研究ⅥA | 上 代 | 2 | JLT711 | | 講義 | | 本年度休講 |
| 日本文学文化特殊研究ⅥB | 上 代 | 2 | JLT712 | | 講義 | | |
| 日本文学文化特殊研究ⅦA | 近 世 | 2 | JLT713 | 春 | 講義 | 高 松 亮 太 | 日本文学文化研究指導ⅠA/B と共通 |
| 日本文学文化特殊研究ⅦB | 近 世 | 2 | JLT714 | 秋 | 講義 | | |
| 日本文学文化特殊研究ⅧA | 近 現 代 | 2 | JLT715 | | 講義 | | 本年度休講 |
| 日本文学文化特殊研究ⅧB | 近 現 代 | 2 | JLT716 | | 講義 | | |
| 日本文学文化特殊研究ⅨA | 近 世 | 2 | JLT717 | | 講義 | | 本年度休講 |
| 日本文学文化特殊研究ⅨB | 近 世 | 2 | JLT718 | | 講義 | | |
| 日本文学文化特殊研究ⅩA | 近 現 代 | 2 | JLT719 | 春 | 講義 | 石 田 仁 志 | 日本文学文化研究指導ⅣA/B と共通 |
| 日本文学文化特殊研究ⅩB | 近 現 代 | 2 | JLT720 | 秋 | 講義 | | |
| 日本文学文化特殊研究ⅩⅠA | 近 現 代 | 2 | JLT721 | 春 | 講義 | 山 本 亮 介 | 日本文学文化研究指導ⅤA/B と共通 |
| 日本文学文化特殊研究ⅩⅠB | 近 現 代 | 2 | JLT722 | 秋 | 講義 | | |
| 日本文学文化特殊研究ⅩⅡA | 中 古 | 2 | JLT723 | | 講義 | | 本年度休講 |
| 日本文学文化特殊研究ⅩⅡB | 中 古 | 2 | JLT724 | | 講義 | | |
| 日本文学文化特殊研究ⅩⅢA | 近 現 代 | 2 | JLT725 | | 講義 | | 本年度休講 |
| 日本文学文化特殊研究ⅩⅢB | 近 現 代 | 2 | JLT726 | | 講義 | | |
| 日本文学文化特殊研究ⅩⅣA | 上 代 | 2 | JLT727 | 春 | 講義 | 菊 地 義 裕 | 日本文学文化研究指導ⅧA/B と共通 |
| 日本文学文化特殊研究ⅩⅣB | 上 代 | 2 | JLT728 | 秋 | 講義 | | |
| 日本語学特殊研究ⅠA | 古 典 語 | 2 | JLN701 | 春 | 講義 | 阿久澤 忠 | |
| 日本語学特殊研究ⅠB | 古 典 語 | 2 | JLN702 | 秋 | 講義 | | |
| 日本語学特殊研究ⅡA | 古 典 語 | 2 | JLN703 | | 講義 | | 本年度休講 |
| 日本語学特殊研究ⅡB | 古 典 語 | 2 | JLN704 | | 講義 | | |
| 日本語学特殊研究ⅢA | 現 代 語 | 2 | JLN705 | | 講義 | | 本年度休講 |
| 日本語学特殊研究ⅢB | 現 代 語 | 2 | JLN706 | | 講義 | | |
| 日本語学特殊研究ⅣA | 現 代 語 | 2 | JLN707 | 春 | 講義 | 木 村 一 | 日本語学研究指導ⅡA/Bと共 通 |
| 日本語学特殊研究ⅣB | 現 代 語 | 2 | JLN708 | 秋 | 講義 | | |

| 授業科目・研究指導 | サブタイトル | 単 位 | 科目 ナンバリング | 学 期 | 講義・ 演習の別 | 担当教員 | 備考 |
|--------------|-----------|--------|--------------|--------|-------------|-------|------------------|
| 日本文学文化研究指導ⅠA | 近世文学文化研究 | | REG701 | 春 | | 高松 亮太 | |
| 日本文学文化研究指導ⅠB | 近世文学文化研究 | | REG702 | 秋 | | | |
| 日本文学文化研究指導ⅡA | 比較文学文化研究 | | REG703 | 春 | | 有澤 晶子 | |
| 日本文学文化研究指導ⅡB | 比較文学文化研究 | | REG704 | 秋 | | | |
| 日本文学文化研究指導ⅢA | 近世文学文化研究 | | REG705 | | | | 本年度休講 |
| 日本文学文化研究指導ⅢB | 近世文学文化研究 | | REG706 | | | | |
| 日本文学文化研究指導ⅣA | 近現代文学文化研究 | | REG707 | 春 | | 石田 仁志 | 2018年度以前入学生のみ履修可 |
| 日本文学文化研究指導ⅣB | 近現代文学文化研究 | | REG708 | 秋 | | | |
| 日本文学文化研究指導ⅤA | 近現代文学文化研究 | | REG709 | 春 | | 山本 亮介 | |
| 日本文学文化研究指導ⅤB | 近現代文学文化研究 | | REG710 | 秋 | | | |
| 日本文学文化研究指導ⅥA | 中古文学文化研究 | | REG711 | | | | 本年度休講 |
| 日本文学文化研究指導ⅥB | 中古文学文化研究 | | REG712 | | | | |
| 日本文学文化研究指導ⅦA | 近現代文学文化研究 | | REG713 | | | | 本年度休講 |
| 日本文学文化研究指導ⅦB | 近現代文学文化研究 | | REG714 | | | | |
| 日本文学文化研究指導ⅧA | 上代文学文化研究 | | REG715 | 春 | | 菊地 義裕 | |
| 日本文学文化研究指導ⅧB | 上代文学文化研究 | | REG716 | 秋 | | | |
| 日本文学文化研究指導ⅨA | 中世文学文化研究 | | REG717 | 春 | | 原田 香織 | |
| 日本文学文化研究指導ⅨB | 中世文学文化研究 | | REG718 | 秋 | | | |
| 日本語学研究指導ⅠA | 古典語研究 | | REG719 | | | | 本年度休講 |
| 日本語学研究指導ⅠB | 古典語研究 | | REG720 | | | | |
| 日本語学研究指導ⅡA | 現代語研究 | | REG721 | 春 | | 木村 一 | |
| 日本語学研究指導ⅡB | 現代語研究 | | REG722 | 秋 | | | |

修了に必要な単位等

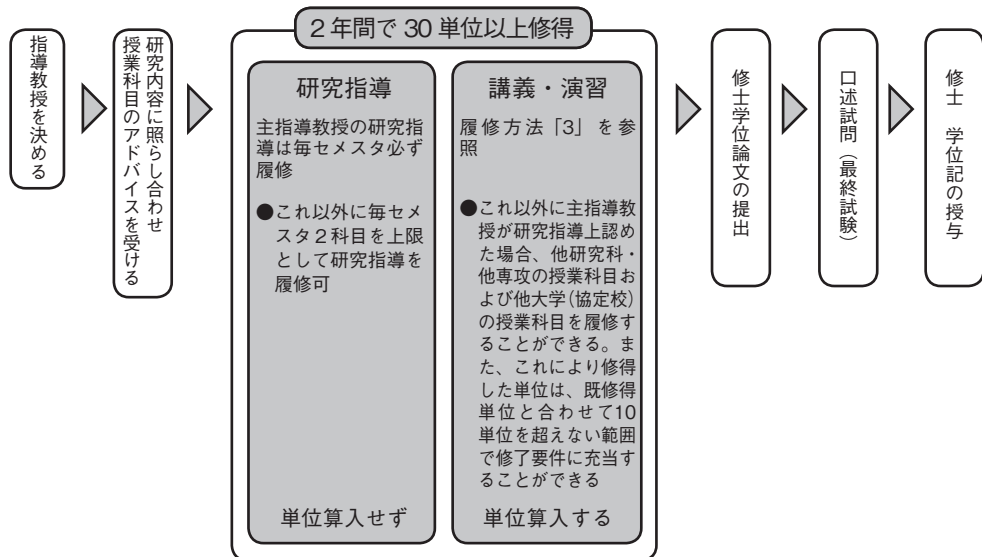
主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。

履修方法

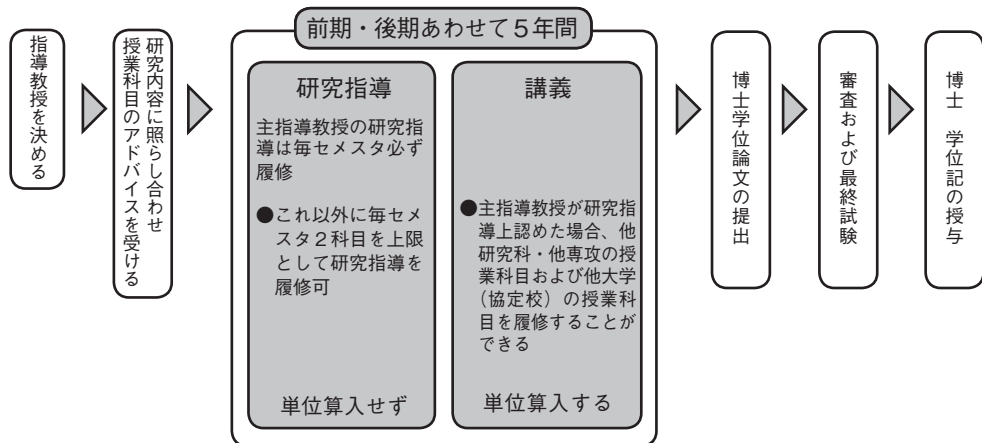
- 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
- 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修・修得することができる（各研究指導は、指定された講義において行う）。
- 本表に掲げたものの他、指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる。

中国哲学専攻

前期課程 履修の流れ



後期課程 履修の流れ



※本専攻では、授業内容の理解や自身の研究を一層深めるために、授業及び研究指導の一環として、海外における調査・研究や学会への参加・発表を奨励しています。

中国哲学専攻

博士前期課程

| 授業科目・研究指導 | 単位 | 科目 ナンバリング | 学期 | 講義・ 演習の別 | 担当教員 | 備考 |
|-----------|----|--------------|----|-------------|--------|-----------------|
| 中国哲学特論Ⅰ① | 2 | CIB601 | | 講義 | | 本年度休講 |
| 中国哲学特論Ⅰ② | 2 | CIB602 | | 講義 | | 本年度休講 |
| 中国哲学特論ⅡA | 2 | CIB603 | | 講義 | | 本年度休講 |
| 中国哲学特論ⅡB | 2 | CIB604 | | 講義 | | 本年度休講 |
| 中国哲学特論ⅢA | 2 | CIB605 | 春秋 | 講義 | 小路口 聡 | |
| 中国哲学特論ⅢB | 2 | CIB606 | 春秋 | 講義 | 小路口 聡 | |
| 中国哲学演習ⅠA | 2 | CIB607 | 春秋 | 演習 | 白井 順 | 中国哲学研究指導ⅣA／Bと共通 |
| 中国哲学演習ⅠB | 2 | CIB608 | 春秋 | 演習 | 白井 順 | 中国哲学研究指導ⅣA／Bと共通 |
| 中国哲学演習ⅡA | 2 | CIB609 | 春秋 | 演習 | 小路口 聡 | 中国哲学研究指導ⅢA／Bと共通 |
| 中国哲学演習ⅡB | 2 | CIB610 | 春秋 | 演習 | 小路口 聡 | 中国哲学研究指導ⅢA／Bと共通 |
| 中国哲学演習ⅢA | 2 | CIB611 | | 演習 | | 本年度休講 |
| 中国哲学演習ⅢB | 2 | CIB612 | | 演習 | | 本年度休講 |
| 中国哲学研究ⅠA | 2 | CIB613 | 春秋 | 講義 | 中村 聡 | |
| 中国哲学研究ⅠB | 2 | CIB614 | 春秋 | 講義 | 中村 聡 | |
| 中国哲学研究ⅡA | 2 | CIB615 | | 講義 | | 本年度休講 |
| 中国哲学研究ⅡB | 2 | CIB616 | | 講義 | | 本年度休講 |
| 中国哲学研究ⅢA | 2 | CIB617 | | 講義 | | 本年度休講 |
| 中国哲学研究ⅢB | 2 | CIB618 | | 講義 | | 本年度休講 |
| 中国文学特論ⅠA | 2 | CHL601 | 春秋 | 講義 | 野間 信幸 | 中国哲学研究指導ⅡA／Bと共通 |
| 中国文学特論ⅠB | 2 | CHL602 | 春秋 | 講義 | 野間 信幸 | 中国哲学研究指導ⅡA／Bと共通 |
| 中国文学特論ⅡA | 2 | CHL603 | 春秋 | 講義 | 坂井 多穂子 | 中国哲学研究指導ⅠA／Bと共通 |
| 中国文学特論ⅡB | 2 | CHL604 | 春秋 | 講義 | 坂井 多穂子 | 中国哲学研究指導ⅠA／Bと共通 |
| 中国文学特論ⅢA | 2 | CHL609 | 春秋 | 講義 | 有澤 晶子 | |
| 中国文学特論ⅢB | 2 | CHL610 | 春秋 | 講義 | 有澤 晶子 | |
| 中国文学演習ⅠA | 2 | CHL605 | 春秋 | 演習 | 大野 公賀 | 中国哲学研究指導ⅤA／Bと共通 |
| 中国文学演習ⅠB | 2 | CHL606 | 春秋 | 演習 | 大野 公賀 | 中国哲学研究指導ⅤA／Bと共通 |
| 中国文学演習ⅡA | 2 | CHL607 | | 演習 | | 本年度休講 |
| 中国文学演習ⅡB | 2 | CHL608 | | 演習 | | 本年度休講 |
| 中国語学研究ⅠA | 2 | LIN601 | 春秋 | 講義 | 野間 信幸 | |
| 中国語学研究ⅠB | 2 | LIN602 | 春秋 | 講義 | 野間 信幸 | |
| 中国語学研究ⅡA | 2 | LIN603 | 春秋 | 講義 | 橋本 恭子 | |
| 中国語学研究ⅡB | 2 | LIN604 | 春秋 | 講義 | 橋本 恭子 | |
| 哲学特論A | 2 | PHE601 | 春秋 | 講義 | 大河内 泰樹 | |
| 哲学特論B | 2 | PHE602 | 春秋 | 講義 | 大河内 泰樹 | |
| 比較哲学特論A | 2 | PHE603 | 春秋 | 講義 | 相楽 勉 | |
| 比較哲学特論B | 2 | PHE604 | 春秋 | 講義 | 相楽 勉 | |
| 仏教学特論A | 2 | CIB619 | | 講義 | | 本年度休講 |
| 仏教学特論B | 2 | CIB620 | | 講義 | | 隔年開講 |
| 東洋史学特論A | 2 | HAA601 | 春秋 | 講義 | 千葉 正史 | |
| 東洋史学特論B | 2 | HAA602 | 春秋 | 講義 | 千葉 正史 | |
| 文献研究(東洋)A | 2 | HAA603 | | 講義 | | 本年度休講 |
| 文献研究(東洋)B | 2 | HAA604 | | 講義 | | 本年度休講 |

| 授業科目・研究指導 | 単位 | 科目 ナンバリング | 学期 | 講義・ 演習の別 | 担 当 教 員 | 備考 |
|------------|----|--------------|----|-------------|---------|----|
| 中国哲学研究指導ⅠA | | REG601 | 春 | | 坂 井 多穂子 | |
| 中国哲学研究指導ⅠB | | REG602 | 秋 | | | |
| 中国哲学研究指導ⅡA | | REG603 | 春 | | 野 間 信 幸 | |
| 中国哲学研究指導ⅡB | | REG604 | 秋 | | | |
| 中国哲学研究指導ⅢA | | REG605 | 春 | | 小路口 聡 | |
| 中国哲学研究指導ⅢB | | REG606 | 秋 | | | |
| 中国哲学研究指導ⅣA | | REG607 | 春 | | 白 井 順 | |
| 中国哲学研究指導ⅣB | | REG608 | 秋 | | | |
| 中国哲学研究指導ⅤA | | REG609 | 春 | | 大 野 公 賀 | |
| 中国哲学研究指導ⅤB | | REG610 | 秋 | | | |

修了に必要な単位等

- 1) 修了要件となる科目で30単位以上修得すること。
- 2) 主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。

履修方法

1. 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
2. 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修・修得することができる（各研究指導は、指定された講義または演習において行う）。
3. 「講義」または「演習」は、同一科目を在学中2回以上履修・単位修得することができる。修得した単位は、修了要件の単位に充当する。
4. 本表に掲げたものの他、指導教授が教育上必要と認めるときは、学則第8条に基づき、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる（同一科目は1回目のみ修了要件として扱い、2回目以降の履修によって修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない）。また、上記により履修し修得した単位は、学則第10条の2に基づく、本大学院に入学する前に修得し、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなす単位（既修得単位）と合わせて、10単位を超えない範囲で修了要件に充当することができる。

博士後期課程

| 授業科目・研究指導 | 単位 | 科目 ナンバリング | 学期 | 講義・ 演習の別 | 担当教員 | 備考 |
|------------|----|--------------|----|-------------|--------|-----------------|
| 中国哲学特殊研究ⅠA | 2 | CIB701 | 春秋 | 講義 | 野間 信幸 | 中国哲学研究指導ⅠA／Bと共通 |
| 中国哲学特殊研究ⅠB | 2 | CIB702 | 春秋 | | | |
| 中国哲学特殊研究ⅡA | 2 | CIB703 | 春秋 | 講義 | 大野 公賀 | 中国哲学研究指導ⅡA／Bと共通 |
| 中国哲学特殊研究ⅡB | 2 | CIB704 | 春秋 | | | |
| 中国哲学特殊研究ⅢA | 2 | CIB705 | 春秋 | 講義 | 小路口 聡 | 中国哲学研究指導ⅢA／Bと共通 |
| 中国哲学特殊研究ⅢB | 2 | CIB706 | 春秋 | | | |
| 中国哲学特殊研究ⅣA | 2 | CIB707 | 春秋 | 講義 | 坂井 多穂子 | 中国哲学研究指導ⅣA／Bと共通 |
| 中国哲学特殊研究ⅣB | 2 | CIB708 | 春秋 | | | |
| 中国哲学特殊研究ⅤA | 2 | CIB709 | 春秋 | 講義 | 白井 順 | 中国哲学研究指導ⅤA／Bと共通 |
| 中国哲学特殊研究ⅤB | 2 | CIB710 | 春秋 | | | |
| 中国哲学研究指導ⅠA | | REG701 | 春秋 | | 野間 信幸 | |
| 中国哲学研究指導ⅠB | | REG702 | 春秋 | | | |
| 中国哲学研究指導ⅡA | | REG703 | 春秋 | | 大野 公賀 | |
| 中国哲学研究指導ⅡB | | REG704 | 春秋 | | | |
| 中国哲学研究指導ⅢA | | REG705 | 春秋 | | 小路口 聡 | |
| 中国哲学研究指導ⅢB | | REG706 | 春秋 | | | |
| 中国哲学研究指導ⅣA | | REG707 | 春秋 | | 坂井 多穂子 | |
| 中国哲学研究指導ⅣB | | REG708 | 春秋 | | | |
| 中国哲学研究指導ⅤA | | REG709 | 春秋 | | 白井 順 | |
| 中国哲学研究指導ⅤB | | REG710 | 春秋 | | | |

修了に必要な単位等

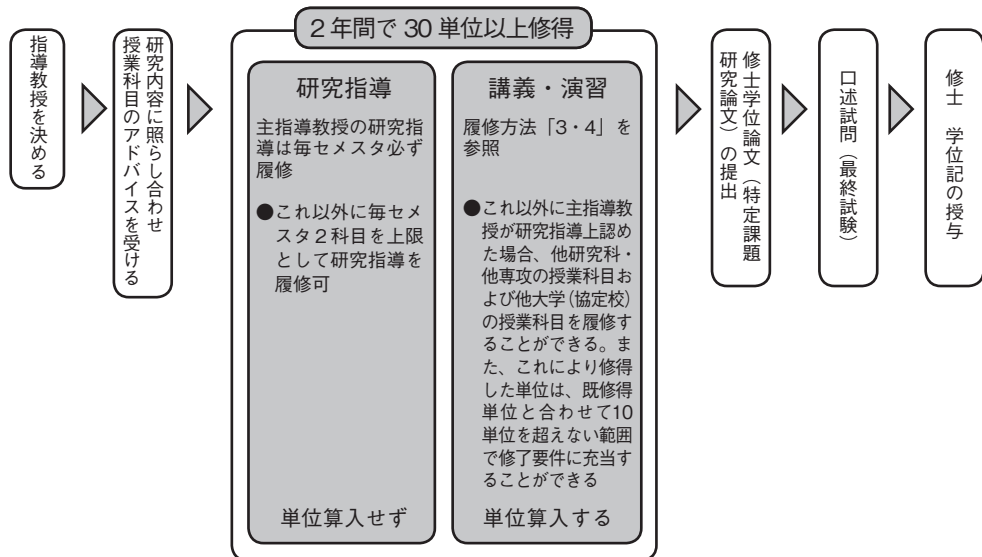
主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。

履修方法

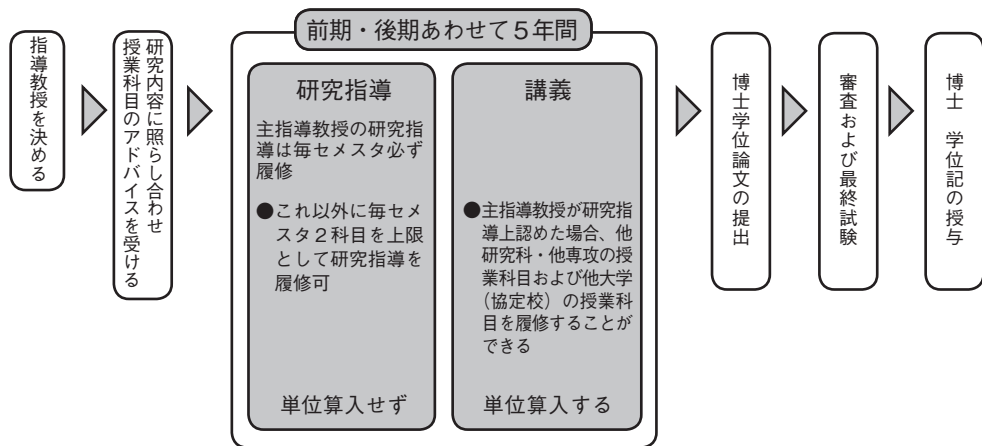
- 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
- 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修・修得することができる（各研究指導は、指定された講義において行う）。
- 本表に掲げたものの他、指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる。

英文学専攻

前期課程 履修の流れ



後期課程 履修の流れ



※本専攻では、授業内容の理解や自身の研究を一層深めるために、授業及び研究指導の一環として、海外における調査・研究や学会への参加・発表を奨励しています。

英 文 学 専 攻

博士前期課程

| 授業科目・研究指導 | 単位 | 科目 ナンバリング | 学期 | 講義・ 演習の別 | 担 当 教 員 | 備 考 |
|-----------------|----|--------------|----|-------------|-----------|-------------------|
| 英 文 学 演 習 I A | 2 | LIE601 | 春 | 演 習 | 石和田 昌 利 | 英文学研究指導 I A/Bと共通 |
| 英 文 学 演 習 I B | 2 | LIE602 | 秋 | | | |
| 英 文 学 演 習 II A | 2 | LIE603 | 春 | 演 習 | 田 中 一 隆 | 英文学研究指導 II A/Bと共通 |
| 英 文 学 演 習 II B | 2 | LIE604 | 秋 | | | |
| 米 文 学 演 習 A | 2 | LIE605 | 春 | 演 習 | 余 田 真 也 | 米文学研究指導 I A/Bと共通 |
| 米 文 学 演 習 B | 2 | LIE606 | 秋 | | | |
| 比 較 文 学 演 習 A | 2 | LIE607 | | 演 習 | | 本年度休講 |
| 比 較 文 学 演 習 B | 2 | LIE608 | | | | |
| 英 語 学 演 習 A | 2 | ENL601 | 春 | 演 習 | 赤 須 薫 | 英語学研究指導 I A/Bと共通 |
| 英 語 学 演 習 B | 2 | ENL602 | 秋 | | | |
| 英 文 学 特 論 I A | 2 | LIE609 | 春 | 講 義 | 田 中 一 隆 | |
| 英 文 学 特 論 I B | 2 | LIE610 | 秋 | | | |
| 英 文 学 特 論 II A | 2 | LIE611 | | 講 義 | | 本年度休講 |
| 英 文 学 特 論 II B | 2 | LIE612 | | | | |
| 英 文 学 特 論 III A | 2 | LIE613 | | 講 義 | | 本年度休講 |
| 英 文 学 特 論 III B | 2 | LIE614 | | | | |
| 米 文 学 特 論 A | 2 | LIE615 | 春 | 講 義 | 北 原 妙 子 | 米文学研究指導 II A/Bと共通 |
| 米 文 学 特 論 B | 2 | LIE616 | 秋 | | | |
| 英 語 学 特 論 I A | 2 | ENL603 | 春 | 講 義 | 波 多 野 満 雄 | 英語学研究指導 II A/Bと共通 |
| 英 語 学 特 論 I B | 2 | ENL604 | 秋 | | | |
| 英 語 学 特 論 II A | 2 | ENL605 | 春 | 講 義 | 井 上 亜 依 | |
| 英 語 学 特 論 II B | 2 | ENL606 | 秋 | | | |
| 英 語 学 特 論 III A | 2 | ENL607 | | 講 義 | | 本年度休講 |
| 英 語 学 特 論 III B | 2 | ENL608 | | | | |
| 英 文 学 思 想 A | 2 | LIE621 | 春 | 講 義 | 石和田 昌 利 | |
| 英 文 学 思 想 B | 2 | LIE622 | 秋 | | | |
| 米 文 学 思 想 A | 2 | LIE623 | | 講 義 | | 本年度休講 |
| 米 文 学 思 想 B | 2 | LIE624 | | | | |

| 授業科目・研究指導 | 単位 | 科目 ナンバリング | 学期 | 講義・ 演習の別 | 担 当 教 員 | 備 考 |
|--------------------|----|--------------|----|-------------|---------|-------|
| 英 文 学 研 究 指 導 I A | | REG601 | 春 | | 石和田 昌 利 | |
| 英 文 学 研 究 指 導 I B | | REG602 | 秋 | | | |
| 英 文 学 研 究 指 導 II A | | REG603 | 春 | | 田 中 一 隆 | |
| 英 文 学 研 究 指 導 II B | | REG604 | 秋 | | | |
| 米 文 学 研 究 指 導 I A | | REG605 | 春 | | 余 田 真 也 | |
| 米 文 学 研 究 指 導 I B | | REG606 | 秋 | | | |
| 米 文 学 研 究 指 導 II A | | REG607 | 春 | | 北 原 妙 子 | |
| 米 文 学 研 究 指 導 II B | | REG608 | 秋 | | | |
| 比 較 文 学 研 究 指 導 A | | REG609 | | | | 本年度休講 |
| 比 較 文 学 研 究 指 導 B | | REG610 | | | | |
| 英 語 学 研 究 指 導 I A | | REG611 | 春 | | 赤 須 薫 | |
| 英 語 学 研 究 指 導 I B | | REG612 | 秋 | | | |
| 英 語 学 研 究 指 導 II A | | REG613 | 春 | | 波多野 満 雄 | |
| 英 語 学 研 究 指 導 II B | | REG614 | 秋 | | | |

修了に必要な単位等

- 1) 修了要件となる科目で30単位以上修得すること。
- 2) 主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。

履修方法

1. 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
2. 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修・修得することができる（各研究指導は、指定された講義または演習において行う）。
3. 主指導教授が担当する「講義」または「演習」は、同一科目を在学中何回でも履修・単位修得することができる。ただし、3回目以降（長期履修学生および原級した場合等）の履修によって修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない。なお、ここで対象とする「講義」または「演習」は、「研究指導」と共通して開講されるものに限る。
4. 履修方法3以外の「講義」または「演習」は、在学中1回のみ履修・単位修得することができる。
5. 本表に掲げたものの他、指導教授が教育上必要と認めるときは、学則第8条に基づき、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる（同一科目は1回目のみ修了要件として扱い、2回目以降の履修によって修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない）。

また、上記により履修し修得した単位は、学則第10条の2に基づく、本大学院に入学する前に修得し、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなす単位（既修得単位）と合わせて、10単位を超えない範囲で修了要件に充当することができる。

博士後期課程

| 授業科目・研究指導 | 単位 | 科目 ナンバリング | 学期 | 講義・ 演習の別 | 担 当 教 員 | 備考 |
|-----------|----|--------------|----|-------------|---------|----------------|
| 英文学特殊研究ⅠA | 2 | LIE701 | 春 | 講義 | 石和田 昌 利 | 英文学研究指導ⅠA／Bと共通 |
| 英文学特殊研究ⅠB | 2 | LIE702 | 秋 | | | |
| 英文学特殊研究ⅡA | 2 | LIE703 | 春 | 講義 | 田 中 一 隆 | 英文学研究指導ⅡA／Bと共通 |
| 英文学特殊研究ⅡB | 2 | LIE704 | 秋 | | | |
| 英文学特殊研究ⅢA | 2 | LIE705 | | 講義 | | 本年度休講 |
| 英文学特殊研究ⅢB | 2 | LIE706 | | | | |
| 米文学特殊研究ⅠA | 2 | LIE707 | 春 | 講義 | 余 田 真 也 | 米文学研究指導ⅠA／Bと共通 |
| 米文学特殊研究ⅠB | 2 | LIE708 | 秋 | | | |
| 米文学特殊研究ⅡA | 2 | LIE709 | 春 | 講義 | 北 原 妙 子 | 米文学研究指導ⅡA／Bと共通 |
| 米文学特殊研究ⅡB | 2 | LIE710 | 秋 | | | |
| 比較文学特殊研究A | 2 | LIE711 | | 講義 | | 本年度休講 |
| 比較文学特殊研究B | 2 | LIE712 | | | | |
| 英語学特殊研究ⅠA | 2 | ENL701 | 春 | 講義 | 赤 須 薫 | 英語学研究指導ⅠA／Bと共通 |
| 英語学特殊研究ⅠB | 2 | ENL702 | 秋 | | | |
| 英語学特殊研究ⅡA | 2 | ENL703 | 春 | 講義 | 波多野 満 雄 | 英語学研究指導ⅡA／Bと共通 |
| 英語学特殊研究ⅡB | 2 | ENL704 | 秋 | | | |
| 英文学研究指導ⅠA | | REG701 | 春 | | 石和田 昌 利 | |
| 英文学研究指導ⅠB | | REG702 | 秋 | | | |
| 英文学研究指導ⅡA | | REG703 | 春 | | 田 中 一 隆 | |
| 英文学研究指導ⅡB | | REG704 | 秋 | | | |
| 米文学研究指導ⅠA | | REG705 | 春 | | 余 田 真 也 | |
| 米文学研究指導ⅠB | | REG706 | 秋 | | | |
| 米文学研究指導ⅡA | | REG707 | 春 | | 北 原 妙 子 | |
| 米文学研究指導ⅡB | | REG708 | 秋 | | | |
| 比較文学研究指導A | | REG709 | | | | 本年度休講 |
| 比較文学研究指導B | | REG710 | | | | |
| 英語学研究指導ⅠA | | REG711 | 春 | | 赤 須 薫 | |
| 英語学研究指導ⅠB | | REG712 | 秋 | | | |
| 英語学研究指導ⅡA | | REG713 | 春 | | 波多野 満 雄 | |
| 英語学研究指導ⅡB | | REG714 | 秋 | | | |

修了に必要な単位等

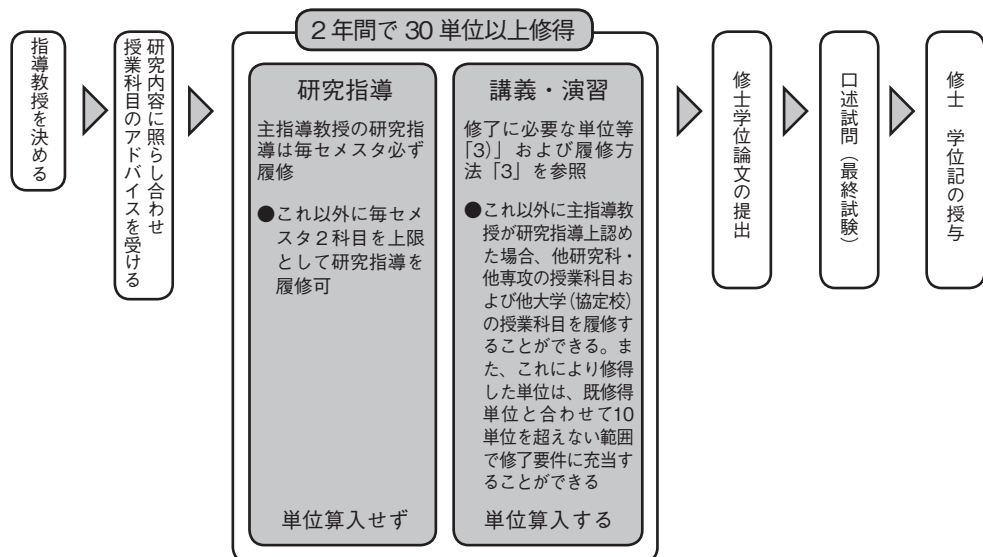
主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。

履修方法

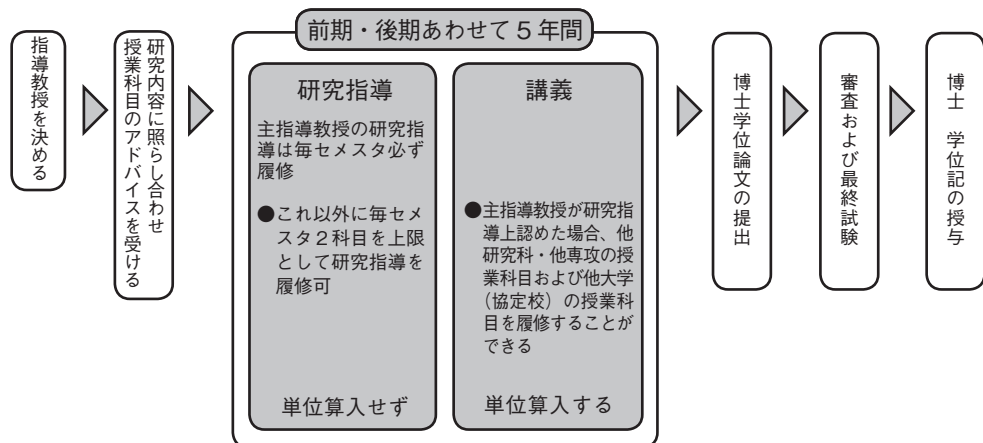
- 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
- 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修・修得することができる（各研究指導は、指定された講義において行う）。
- 本表に掲げたものの他、指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる。

史学専攻

前期課程 履修の流れ



後期課程 履修の流れ



ただし、2014年度以前入学生についてはセメスタを年度に読み替える
 ※本専攻では、授業内容の理解や自身の研究を一層深めるために、授業及び研究指導の一環として、海外における調査・研究や学会への参加・発表を奨励しています。

史学専攻

博士前期課程

| 授業科目 | | 単位 | 科目ナンバリング | 学期 | 講義・演習の別 | 担当教員 | 備考 |
|----------|----------|----|----------|----|---------|---------|------------------------|
| 日本史学 | 特論 I A | 2 | JPH601 | 春秋 | 講義 | 森 公 章 | |
| 日本史学 | 特論 I B | 2 | JPH602 | 春秋 | 講義 | | |
| 日本史学 | 特論 II A | 2 | JPH603 | 春秋 | 講義 | 木 下 聡 | |
| 日本史学 | 特論 II B | 2 | JPH604 | 春秋 | 講義 | | |
| 日本史学 | 特論 III A | 2 | JPH605 | 春秋 | 講義 | 朴 澤 直 秀 | |
| 日本史学 | 特論 III B | 2 | JPH606 | 春秋 | 講義 | | |
| 日本史学 | 特論 IV A | 2 | JPH607 | 春秋 | 講義 | 岩 下 哲 典 | |
| 日本史学 | 特論 IV B | 2 | JPH608 | 春秋 | 講義 | | |
| 日本史学 | 特論 V A | 2 | JPH609 | 春秋 | 講義 | 大豆生田 稔 | |
| 日本史学 | 特論 V B | 2 | JPH610 | 春秋 | 講義 | | |
| 日本史学 | 演習 I A | 2 | JPH611 | 春秋 | 演習 | 森 公 章 | 日本史学研究指導 I A/Bと共通 |
| 日本史学 | 演習 I B | 2 | JPH612 | 春秋 | 演習 | | |
| 日本史学 | 演習 II A | 2 | JPH613 | 春秋 | 演習 | 木 下 聡 | 日本史学研究指導 II A/Bと共通 |
| 日本史学 | 演習 II B | 2 | JPH614 | 春秋 | 演習 | | |
| 日本史学 | 演習 III A | 2 | JPH615 | 春秋 | 演習 | 朴 澤 直 秀 | 日本史学研究指導 III A/Bと共通 |
| 日本史学 | 演習 III B | 2 | JPH616 | 春秋 | 演習 | | |
| 日本史学 | 演習 IV A | 2 | JPH617 | 春秋 | 演習 | 岩 下 哲 典 | 日本史学研究指導 IV A/Bと共通 |
| 日本史学 | 演習 IV B | 2 | JPH618 | 春秋 | 演習 | | |
| 日本史学 | 演習 V A | 2 | JPH619 | 春秋 | 演習 | 大豆生田 稔 | 日本史学研究指導 V A/Bと共通 |
| 日本史学 | 演習 V B | 2 | JPH620 | 春秋 | 演習 | | |
| 東洋史学 | 特論 I A | 2 | HAA603 | 春秋 | 講義 | 西 村 陽 子 | |
| 東洋史学 | 特論 I B | 2 | HAA604 | 春秋 | 講義 | | |
| 東洋史学 | 特論 II A | 2 | HAA605 | 春秋 | 講義 | 千 葉 正 史 | |
| 東洋史学 | 特論 II B | 2 | HAA606 | 春秋 | 講義 | | |
| 東洋史学 | 特論 III A | 2 | HAA607 | 春秋 | 講義 | | 本年度休講 |
| 東洋史学 | 特論 III B | 2 | HAA608 | 春秋 | 講義 | | |
| 東洋史学 | 演習 I A | 2 | HAA609 | 春秋 | 演習 | 西 村 陽 子 | 東洋史学研究指導 I A/Bと共通 |
| 東洋史学 | 演習 I B | 2 | HAA610 | 春秋 | 演習 | | |
| 東洋史学 | 演習 II A | 2 | HAA611 | 春秋 | 演習 | 千 葉 正 史 | 東洋史学研究指導 II A/Bと共通 |
| 東洋史学 | 演習 II B | 2 | HAA612 | 春秋 | 演習 | | |
| 東洋史学 | 演習 III A | 2 | HAA613 | 春秋 | 演習 | | 本年度休講 |
| 東洋史学 | 演習 III B | 2 | HAA614 | 春秋 | 演習 | | |
| 西洋史学 | 特論 I A | 2 | HEA603 | 春秋 | 講義 | 長谷川 岳 男 | |
| 西洋史学 | 特論 I B | 2 | HEA604 | 春秋 | 講義 | | |
| 西洋史学 | 特論 II A | 2 | HEA605 | 春秋 | 講義 | 鈴 木 道 也 | |
| 西洋史学 | 特論 II B | 2 | HEA606 | 春秋 | 講義 | | |
| 西洋史学 | 特論 III A | 2 | HEA607 | 春秋 | 講義 | 後 藤 はる美 | 西洋史学研究指導 III A/Bと共通 |
| 西洋史学 | 特論 III B | 2 | HEA608 | 春秋 | 講義 | | |
| 西洋史学 | 特論 IV A | 2 | HEA615 | 春秋 | 講義 | 村 田 奈々子 | |
| 西洋史学 | 特論 IV B | 2 | HEA616 | 春秋 | 講義 | | |
| 西洋史学 | 演習 I A | 2 | HEA609 | 春秋 | 演習 | 長谷川 岳 男 | 西洋史学研究指導 I A/Bと共通 |
| 西洋史学 | 演習 I B | 2 | HEA610 | 春秋 | 演習 | | |
| 西洋史学 | 演習 II A | 2 | HEA611 | 春秋 | 演習 | 鈴 木 道 也 | |
| 西洋史学 | 演習 II B | 2 | HEA612 | 春秋 | 演習 | | |
| 西洋史学 | 演習 III A | 2 | HEA613 | 春秋 | 演習 | 後 藤 はる美 | 西洋史学研究指導 III A/Bと共通 |
| 西洋史学 | 演習 III B | 2 | HEA614 | 春秋 | 演習 | | |
| 西洋史学 | 演習 IV A | 2 | HEA617 | 春秋 | 演習 | 村 田 奈々子 | 西洋史学研究指導 IV A/Bと共通 |
| 西洋史学 | 演習 IV B | 2 | HEA618 | 春秋 | 演習 | | |
| 考古学 | 特論 A | 2 | ARC601 | 春秋 | 講義 | 高 島 英 之 | |
| 考古学 | 特論 B | 2 | ARC602 | 春秋 | 講義 | | |
| 文献研究(日本) | A | 2 | JPH621 | 春秋 | 講義 | 青 木 直 己 | |
| 文献研究(日本) | B | 2 | JPH622 | 春秋 | 講義 | | |
| 文献研究(東洋) | A | 2 | HAA601 | 春秋 | 講義 | | 本年度休講 |
| 文献研究(東洋) | B | 2 | HAA602 | 春秋 | 講義 | | |
| 文献研究(西洋) | A | 2 | HEA601 | 春秋 | 講義 | 高 島 純 夫 | |
| 文献研究(西洋) | B | 2 | HEA602 | 春秋 | 講義 | | |
| 史料管理 | 学 | 4 | HSG601 | 春秋 | 講義 | | 国文学研究資料館における研修(集中講義形式) |

| 研究指導 | 単位 | 科目 ナンバリング | 学期 | 講義・ 演習の別 | 担当教員 | 備考 |
|----------------|----|--------------|----|-------------|---------|-------|
| 日本史学研究指導 I A | | REG601 | 春秋 | | 森 公 章 | |
| 日本史学研究指導 I B | | REG602 | 春秋 | | | |
| 日本史学研究指導 II A | | REG603 | 春秋 | | 木 下 聡 | |
| 日本史学研究指導 II B | | REG604 | 春秋 | | | |
| 日本史学研究指導 III A | | REG605 | 春秋 | | 朴 澤 直 秀 | |
| 日本史学研究指導 III B | | REG606 | 春秋 | | | |
| 日本史学研究指導 IV A | | REG607 | 春秋 | | 岩 下 哲 典 | |
| 日本史学研究指導 IV B | | REG608 | 春秋 | | | |
| 日本史学研究指導 V A | | REG609 | 春秋 | | 大豆生田 稔 | |
| 日本史学研究指導 V B | | REG610 | 春秋 | | | |
| 東洋史学研究指導 I A | | REG611 | 春秋 | | 西 村 陽 子 | |
| 東洋史学研究指導 I B | | REG612 | 春秋 | | | |
| 東洋史学研究指導 II A | | REG613 | 春秋 | | 千 葉 正 史 | |
| 東洋史学研究指導 II B | | REG614 | 春秋 | | | |
| 東洋史学研究指導 III A | | REG615 | | | | 本年度休講 |
| 東洋史学研究指導 III B | | REG616 | | | | |
| 西洋史学研究指導 I A | | REG617 | 春秋 | | 長谷川 岳 男 | |
| 西洋史学研究指導 I B | | REG618 | 春秋 | | | |
| 西洋史学研究指導 II A | | REG619 | | | | 本年度休講 |
| 西洋史学研究指導 II B | | REG620 | | | | |
| 西洋史学研究指導 III A | | REG621 | 春秋 | | 後 藤 はる美 | |
| 西洋史学研究指導 III B | | REG622 | 春秋 | | | |
| 西洋史学研究指導 IV A | | REG623 | 春秋 | | 村 田 奈々子 | |
| 西洋史学研究指導 IV B | | REG624 | 春秋 | | | |

修了に必要な単位等

1) 修了要件となる科目で30単位以上修得すること。

2) 主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。

3) 下記の①②を満たすこと。

①日本史学コースの者は「日本史学特論 I A・B」～「日本史学特論 V A・B」の10科目の中から、異なる4科目、8単位以上を修得すること。

東洋史学コースの者は「東洋史学特論 I A・B」～「東洋史学特論 III A・B」の6科目の中から、異なる4科目、8単位以上を修得すること。

西洋史学コースの者は「西洋史学特論 I A・B」～「西洋史学特論 IV A・B」の8科目の中から、異なる4科目、8単位以上を修得すること。

②日本史学コースの者は「日本史学演習 I A・B」～「日本史学演習 V A・B」の10科目の中から、8単位以上を修得すること。

東洋史学コースの者は「東洋史学演習 I A・B」～「東洋史学演習 III A・B」の6科目の中から、8単位以上を修得すること。

西洋史学コースの者は「西洋史学演習 I A・B」～「西洋史学演習 IV A・B」の8科目の中から、8単位以上を修得すること。

履修方法

1. 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。

2. 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修・修得することができる（各研究指導は、指定された演習において行う）。

3. 「講義」または「演習」は、同一科目を在学中2回以上履修・単位修得することができる。修得した単位は、修了要件の単位に充当する。

4. 本表に掲げたものの他、指導教授が教育上必要と認めるときは、学則第8条に基づき、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる（同一科目は1回目のみ修了要件として扱い、2回目以降の履修によって修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない）。

また、上記により履修し修得した単位は、学則第10条の2に基づく、本大学院に入学する前に修得し、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなす単位（既修得単位）と合わせて、10単位を超えない範囲で修了要件に充当することができる。

博士後期課程

| 授業科目・研究指導 | | | | | 講義・演習の別 | 担当教員 | 備考 | |
|--------------------------|--------|--------------------------|--------|------------------|---------|------|---------|---------------------|
| 2014年度以前入学生適用 | 単位 | 2015年度以降入学生適用 | 単位 | 科目ナンバリング | | | | 学期 |
| 日本史学特殊研究Ⅰ | 4 | 日本史学特殊研究ⅠA 日本史学特殊研究ⅠB | 2 2 | JPH701 JPH702 | 春秋 | 講義 | 森 公 章 | 日本史学研究指導ⅠA/B と共通 |
| 日本史学特殊研究Ⅱ | 4 | 日本史学特殊研究ⅡA 日本史学特殊研究ⅡB | 2 2 | JPH703 JPH704 | 春秋 | 講義 | 木 下 聡 | 日本史学研究指導ⅡA/B と共通 |
| 日本史学特殊研究Ⅲ | 4 | 日本史学特殊研究ⅢA 日本史学特殊研究ⅢB | 2 2 | JPH705 JPH706 | 春秋 | 講義 | 朴 澤 直 秀 | 日本史学研究指導ⅢA/B と共通 |
| 日本史学特殊研究Ⅳ | 4 | 日本史学特殊研究ⅣA 日本史学特殊研究ⅣB | 2 2 | JPH707 JPH708 | 春秋 | 講義 | 岩 下 哲 典 | 日本史学研究指導ⅣA/B と共通 |
| 日本史学特殊研究Ⅴ | 4 | 日本史学特殊研究ⅤA 日本史学特殊研究ⅤB | 2 2 | JPH709 JPH710 | 春秋 | 講義 | 大豆生田 稔 | 日本史学研究指導ⅤA/B と共通 |
| 東洋史学特殊研究Ⅰ | 4 | 東洋史学特殊研究ⅠA 東洋史学特殊研究ⅠB | 2 2 | HAA701 HAA702 | 春秋 | 講義 | 西 村 陽 子 | 東洋史学研究指導ⅠA/B と共通 |
| 東洋史学特殊研究Ⅱ | 4 | 東洋史学特殊研究ⅡA 東洋史学特殊研究ⅡB | 2 2 | HAA703 HAA704 | 春秋 | 講義 | 千 葉 正 史 | 東洋史学研究指導ⅡA/B と共通 |
| 東洋史学特殊研究Ⅲ | 4 | 東洋史学特殊研究ⅢA 東洋史学特殊研究ⅢB | 2 2 | HAA705 HAA706 | | 講義 | | 本年度休講 |
| 西洋史学特殊研究Ⅰ | 4 | 西洋史学特殊研究ⅠA 西洋史学特殊研究ⅠB | 2 2 | HEA701 HEA702 | 春秋 | 講義 | 長谷川 岳 男 | 西洋史学研究指導ⅠA/B と共通 |
| 西洋史学特殊研究Ⅱ | 4 | 西洋史学特殊研究ⅡA 西洋史学特殊研究ⅡB | 2 2 | HEA703 HEA704 | | 講義 | | 本年度休講 |
| 西洋史学特殊研究Ⅲ | 4 | 西洋史学特殊研究ⅢA 西洋史学特殊研究ⅢB | 2 2 | HEA705 HEA706 | 春秋 | 講義 | 後 藤 はる美 | 西洋史学研究指導ⅢA/B と共通 |
| 西洋史学特殊研究ⅣA 西洋史学特殊研究ⅣB | 2 2 | 西洋史学特殊研究ⅣA 西洋史学特殊研究ⅣB | 2 2 | HEA707 HEA708 | 春秋 | 講義 | 村 田 奈々子 | 西洋史学研究指導ⅣA/B と共通 |
| 日本史学研究指導Ⅰ | | 日本史学研究指導ⅠA 日本史学研究指導ⅠB | | REG701 REG702 | 春秋 | | 森 公 章 | |
| 日本史学研究指導Ⅱ | | 日本史学研究指導ⅡA 日本史学研究指導ⅡB | | REG703 REG704 | 春秋 | | 木 下 聡 | |
| 日本史学研究指導Ⅲ | | 日本史学研究指導ⅢA 日本史学研究指導ⅢB | | REG705 REG706 | 春秋 | | 朴 澤 直 秀 | |
| 日本史学研究指導Ⅳ | | 日本史学研究指導ⅣA 日本史学研究指導ⅣB | | REG707 REG708 | 春秋 | | 岩 下 哲 典 | |
| 日本史学研究指導Ⅴ | | 日本史学研究指導ⅤA 日本史学研究指導ⅤB | | REG709 REG710 | 春秋 | | 大豆生田 稔 | |
| 東洋史学研究指導Ⅰ | | 東洋史学研究指導ⅠA 東洋史学研究指導ⅠB | | REG711 REG712 | 春秋 | | 西 村 陽 子 | |
| 東洋史学研究指導Ⅱ | | 東洋史学研究指導ⅡA 東洋史学研究指導ⅡB | | REG713 REG714 | 春秋 | | 千 葉 正 史 | |
| 東洋史学研究指導Ⅲ | | 東洋史学研究指導ⅢA 東洋史学研究指導ⅢB | | REG715 REG716 | | | | 本年度休講 |
| 西洋史学研究指導Ⅰ | | 西洋史学研究指導ⅠA 西洋史学研究指導ⅠB | | REG717 REG718 | 春秋 | | 長谷川 岳 男 | |
| 西洋史学研究指導Ⅱ | | 西洋史学研究指導ⅡA 西洋史学研究指導ⅡB | | REG719 REG720 | | | | 本年度休講 |
| 西洋史学研究指導Ⅲ | | 西洋史学研究指導ⅢA 西洋史学研究指導ⅢB | | REG721 REG722 | 春秋 | | 後 藤 はる美 | |
| 西洋史学研究指導ⅣA 西洋史学研究指導ⅣB | | 西洋史学研究指導ⅣA 西洋史学研究指導ⅣB | | REG723 REG724 | 春秋 | | 村 田 奈々子 | |

修了に必要な単位等

主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。

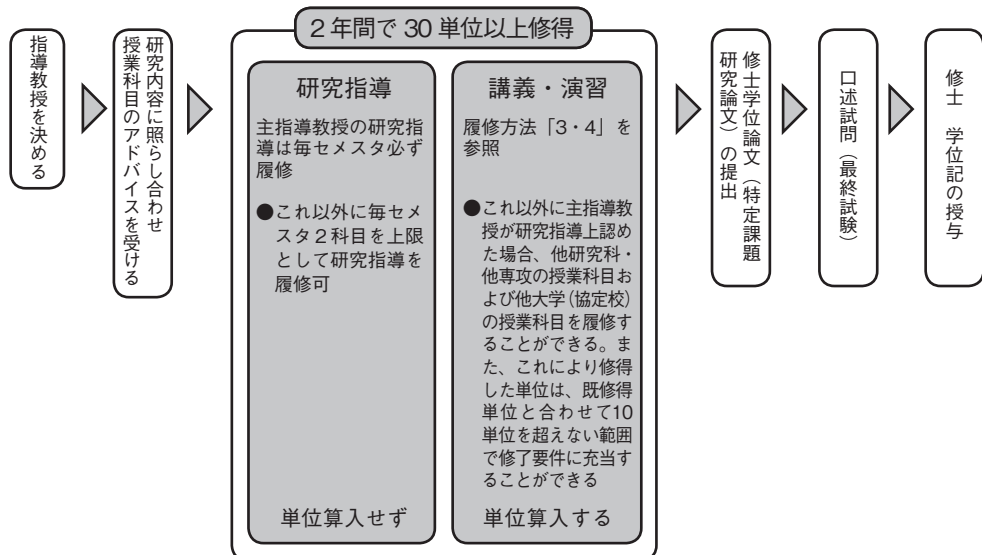
履修方法

- 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
- 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修・修得することができる（各研究指導は、指定された講義において行う）。
- 本表に掲げたものの他、指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる。

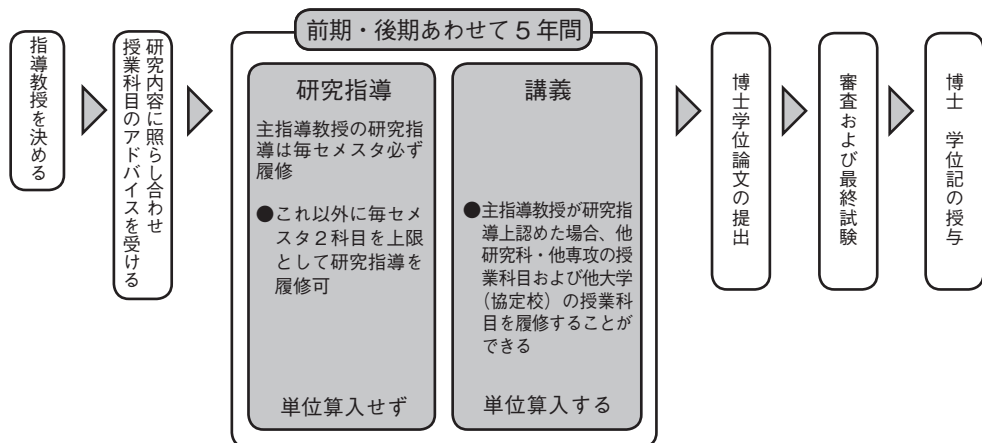
注) 通年制の学生は、「セメスタ」を「年度」と読み替えること。

教育学専攻

前期課程 履修の流れ



後期課程 履修の流れ



ただし、2014年度以前入学生についてはセメスタを年度に読み替える
 ※本専攻では、授業内容の理解や自身の研究を一層深めるために、授業及び研究指導の一環として、海外における調査・研究や学会への参加・発表を奨励しています。

教 育 学 専 攻

博士前期課程

| 授業科目・研究指導 | 単位 | 科目 ナンバリング | 学期 | 講義・ 演習の別 | 担 当 教 員 | 備考 |
|-----------------|----|--------------|----|-------------|-----------|-------------------------|
| 学校教育研究特殊講義 A | 2 | EDU601 | | 講 義 | | 本年度休講（隔年開講） |
| 学校教育研究特殊講義 B | 2 | EDU602 | | 講 義 | | 本年度休講（隔年開講） |
| 学校教育研究演習 A | 2 | EDU603 | 春秋 | 演 習 | 斎 藤 里 美 | 教育学研究指導Ⅳ A／Bと共通 隔年開講 |
| 学校教育研究演習 B | 2 | EDU604 | | 演 習 | | 隔年開講 |
| 教育学説研究特殊講義 A | 2 | EDU605 | | 講 義 | | 本年度休講（隔年開講） |
| 教育学説研究特殊講義 B | 2 | EDU606 | | 講 義 | | 本年度休講（隔年開講） |
| 教育学説研究演習 A | 2 | EDU607 | 春秋 | 演 習 | 吉 良 直 | 教育学研究指導Ⅶ A／Bと共通 隔年開講 |
| 教育学説研究演習 B | 2 | EDU608 | | 演 習 | | 隔年開講 |
| 教育学説史研究特殊講義 A | 2 | EDU609 | 春秋 | 講 義 | 北 野 秋 男 | |
| 教育学説史研究特殊講義 B | 2 | EDU610 | | 講 義 | | |
| 比較教育史演習 A | 2 | EDU611 | 春秋 | 演 習 | 須 田 将 司 | 教育学研究指導Ⅴ A／Bと共通 |
| 比較教育史演習 B | 2 | EDU612 | | 演 習 | | |
| 特別支援教育研究特殊講義 A | 2 | SNE607 | | 講 義 | | 本年度休講（隔年開講） |
| 特別支援教育研究特殊講義 B | 2 | SNE608 | | 講 義 | | 本年度休講（隔年開講） |
| 特別支援教育研究演習 A | 2 | SNE609 | 春秋 | 演 習 | 高 野 聡 子 | 教育学研究指導Ⅶ A／Bと共通 隔年開講 |
| 特別支援教育研究演習 B | 2 | SNE610 | | 演 習 | | 隔年開講 |
| 障害児臨床心理研究特殊講義 A | 2 | SNE611 | 春秋 | 講 義 | 緒 方 登 士 雄 | 教育学研究指導Ⅱ A／Bと共通 |
| 障害児臨床心理研究特殊講義 B | 2 | SNE612 | | 講 義 | | |
| 学習指導論特殊講義 A | 2 | EDU613 | 春秋 | 講 義 | 栗 原 久 | 教育学研究指導Ⅴ A／Bと共通 |
| 学習指導論特殊講義 B | 2 | EDU614 | | 講 義 | | |
| 学習指導論研究演習 A | 2 | EDU615 | 春秋 | 演 習 | 下 田 好 行 | 教育学研究指導Ⅷ A／Bと共通 |
| 学習指導論研究演習 B | 2 | EDU616 | | 演 習 | | |
| 心理査定法特殊講義 A | 2 | EDP601 | 春秋 | 講 義 | 榎 本 淳 子 | 教育学研究指導Ⅲ A／Bと共通 |
| 心理査定法特殊講義 B | 2 | EDP602 | | 講 義 | | |
| 臨床教育心理学特殊講義 A | 2 | EDP603 | 春秋 | 講 義 | 東 條 吉 邦 | 隔年開講 |
| 臨床教育心理学特殊講義 B | 2 | EDP604 | | 講 義 | | |
| 臨床教育心理学研究演習 A | 2 | EDP605 | | 演 習 | | 本年度休講（隔年開講） |
| 臨床教育心理学研究演習 B | 2 | EDP606 | | 演 習 | | |
| 臨床教育心理治療法特殊講義 | 2 | EDP607 | 秋 | 講 義 | 篠 崎 信 之 | 教育学研究指導Ⅸ Bと共通 |
| カウンセリング実習 | 2 | EDP608 | 春 | 演 習 | 篠 崎 信 之 | 教育学研究指導Ⅸ Aと共通 |
| 心理発達学特殊講義 A | 2 | EDP609 | 春秋 | 講 義 | 瀧 澤 利 行 | 集中講義 |
| 心理発達学特殊講義 B | 2 | EDP610 | | 講 義 | | |
| 障害児心理特殊講義 A | 2 | EDP619 | | 講 義 | | 本年度休講（隔年開講） |
| 障害児心理特殊講義 B | 2 | EDP620 | | 講 義 | | |
| 障害児心理研究演習 A | 2 | EDP621 | 春秋 | 演 習 | 大 江 啓 賢 | 教育学研究指導Ⅹ A／Bと共通 隔年開講 |
| 障害児心理研究演習 B | 2 | EDP622 | | 演 習 | | |
| 学習心理学特殊講義 A | 2 | EDP615 | 春秋 | 講 義 | 西 永 堅 | 集中講義 |
| 学習心理学特殊講義 B | 2 | EDP616 | | 講 義 | | |
| 生徒指導・進路指導特殊講義 | 2 | EDU617 | 秋 | 講 義 | 谷 口 明 子 | 教育学研究指導Ⅺ Bと共通 |
| 生涯学習の研究特殊講義 A | 2 | EDU618 | | 講 義 | | 本年度休講 |
| 生涯学習の研究特殊講義 B | 2 | EDU619 | | 講 義 | | |
| 生涯学習計画の研究演習 A | 2 | EDU620 | 春秋 | 演 習 | 堀 本 麻 由 子 | 教育学研究指導Ⅵ A／Bと共通 隔年開講 |
| 生涯学習計画の研究演習 B | 2 | EDU621 | | 演 習 | | |
| 教育社会学研究特殊講義 A | 2 | SOE601 | 春 | 講 義 | 木 村 元 | 本年度休講（隔年開講） |
| 教育社会学研究特殊講義 B | 2 | SOE602 | | 講 義 | | |
| 女性学の研究演習 A | 2 | SOE603 | 春秋 | 演 習 | 内 藤 和 美 | |
| 女性学の研究演習 B | 2 | SOE604 | | 演 習 | | |
| 生活文化研究特殊講義 A | 2 | EDU622 | 春秋 | 講 義 | 関 直 規 | 教育学研究指導Ⅻ A／Bと共通 隔年開講 |
| 生活文化研究特殊講義 B | 2 | EDU623 | | 講 義 | | |
| 生活文化研究演習 A | 2 | EDU624 | | 演 習 | | 本年度休講（隔年開講） |
| 生活文化研究演習 B | 2 | EDU625 | | 演 習 | | |
| 教育行財政学特殊講義 A | 2 | SOE605 | | 講 義 | | 本年度休講（隔年開講） |
| 教育行財政学特殊講義 B | 2 | SOE606 | | 講 義 | | |
| 教育行財政学研究演習 A | 2 | SOE607 | 春秋 | 演 習 | 藤 本 典 裕 | 教育学研究指導Ⅹ A／Bと共通 隔年開講 |
| 教育行財政学研究演習 B | 2 | SOE608 | | 演 習 | | |
| 授業分析論特殊講義 | 2 | EDU626 | 秋 | 講 義 | 桂 直 美 | 教育学研究指導Ⅺ Bと共通 |
| 音楽科教育研究演習 | 2 | ESS601 | 春 | 演 習 | 桂 直 美 | 教育学研究指導Ⅺ Aと共通 |
| 環境教育論特殊講義 | 2 | ESS602 | 春 | 講 義 | 鈴 木 一 成 | 教育学研究指導Ⅲ Aと共通 |
| 理科教育研究演習 | 2 | ESS603 | 秋 | 演 習 | 鈴 木 一 成 | 教育学研究指導Ⅲ Bと共通 |
| 国語科教育研究演習 | 2 | ESS604 | 春 | 演 習 | 勝 田 光 | |
| 算数・数学科教育特殊講義 | 2 | ESS605 | 春 | 講 義 | 長 谷 川 勝 久 | 教育学研究指導Ⅳ Aと共通 |
| 算数・数学科教育研究演習 | 2 | ESS606 | 秋 | 演 習 | 長 谷 川 勝 久 | 教育学研究指導Ⅳ Bと共通 |

| 授業科目・研究指導 | 単位 | 科目 ナンバリング | 学期 | 講義・ 演習の別 | 担当教員 | 備考 |
|----------------|----|--------------|----|-------------|--------|--------------|
| 図画工作・美術科教育研究演習 | 2 | ESS607 | 春 | 演習 | 北澤 俊之 | 教育学研究指導ⅧAと共通 |
| 社会科学教育研究演習 | 2 | ESS608 | | 演習 | | 本年度休講（隔年開講） |
| 比較教育史特殊講義 | 2 | EDU627 | 秋 | 講義 | 木村 元 | 隔年開講 |
| 教育文化論特殊講義 | 2 | SOE609 | | 講義 | | 本年度休講 |
| 教育心理学特殊講義 | 2 | EDP617 | 春 | 講義 | 谷口 明子 | 教育学研究指導ⅦAと共通 |
| 教育相談学特殊講義 | 2 | EDP618 | | 講義 | | 本年度休講（隔年開講） |
| 教育学研究指導ⅠA | | REG601 | 春 | | 矢口 悦子 | |
| 教育学研究指導ⅠB | | REG602 | 秋 | | | |
| 教育学研究指導ⅡA | | REG603 | 春 | | 緒方 登士雄 | |
| 教育学研究指導ⅡB | | REG604 | 秋 | | | |
| 教育学研究指導ⅢA | | REG605 | 春 | | 鈴木 一成 | |
| 教育学研究指導ⅢB | | REG606 | 秋 | | | |
| 教育学研究指導ⅣA | | REG607 | 春 | | 斎藤 里美 | |
| 教育学研究指導ⅣB | | REG608 | 秋 | | | |
| 教育学研究指導ⅤA | | REG609 | 春 | | 栗原 久 | |
| 教育学研究指導ⅤB | | REG610 | 秋 | | | |
| 教育学研究指導ⅥA | | REG611 | 春 | | 堀本 麻由子 | |
| 教育学研究指導ⅥB | | REG612 | 秋 | | | |
| 教育学研究指導ⅦA | | REG613 | 春 | | 吉良 直 | |
| 教育学研究指導ⅦB | | REG614 | 秋 | | | |
| 教育学研究指導ⅧA | | REG615 | 春 | | 下田 好行 | |
| 教育学研究指導ⅧB | | REG616 | 秋 | | | |
| 教育学研究指導ⅨA | | REG617 | 春 | | 篠崎 信之 | |
| 教育学研究指導ⅨB | | REG618 | 秋 | | | |
| 教育学研究指導ⅩA | | REG619 | 春 | | 藤本 典裕 | |
| 教育学研究指導ⅩB | | REG620 | 秋 | | | |
| 教育学研究指導ⅪA | | REG621 | 春 | | 桂 直美 | |
| 教育学研究指導ⅪB | | REG622 | 秋 | | | |
| 教育学研究指導ⅫA | | REG623 | 春 | | 谷口 明子 | |
| 教育学研究指導ⅫB | | REG624 | 秋 | | | |
| 教育学研究指導ⅬA | | REG625 | 春 | | 榎本 淳子 | |
| 教育学研究指導ⅬB | | REG626 | 秋 | | | |
| 教育学研究指導ⅭA | | REG627 | 春 | | 長谷川 勝久 | |
| 教育学研究指導ⅭB | | REG628 | 秋 | | | |
| 教育学研究指導ⅮA | | REG629 | 春 | | 須田 将司 | |
| 教育学研究指導ⅮB | | REG630 | 秋 | | | |
| 教育学研究指導ⅯA | | REG631 | 春 | | 関 直規 | |
| 教育学研究指導ⅯB | | REG632 | 秋 | | | |
| 教育学研究指導ⅰA | | REG633 | 春 | | 高野 聡子 | |
| 教育学研究指導ⅰB | | REG634 | 秋 | | | |
| 教育学研究指導ⅱA | | REG635 | 春 | | 北澤 俊之 | |
| 教育学研究指導ⅱB | | REG636 | 秋 | | | |
| 教育学研究指導ⅲA | | REG637 | 春 | | 大江 啓賢 | |
| 教育学研究指導ⅲB | | REG638 | 秋 | | | |

修了に必要な単位等

- 1) 修了要件となる科目で30単位以上修得すること。
- 2) 主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。

履修方法

1. 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
2. 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修・修得することができる（各研究指導は、指定された講義または演習において行う）。
3. 主指導教授が担当する「講義」および「演習」は、同一科目を在学中何回でも履修・単位修得することができる。ただし、3回目以降（長期履修学生および原級した場合等）の履修によって修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない。なお、ここで対象とする「講義」または「演習」は、「研究指導」と共通して開講されるものに限る。
4. 履修方法3以外の「講義」または「演習」は、同一科目を在学中何回でも履修・単位修得することができるが、この場合、修了単位として認められるのは、最初に修得した成績および単位のみとする。
5. 本表に掲げたもの他、指導教授が教育上必要と認めるときは、学則第8条に基づき、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる（同一科目は1回目のみ修了要件として扱い、2回目以降の履修によって修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない）。また、上記により履修し修得した単位は、学則第10条の2に基づく、本大学院に入学する前に修得し、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなす単位（既修得単位）と合わせて、10単位を超えない範囲で修了要件に充当することができる。

教育学専攻 博士前期課程 授業科目読替表

履修登録や修了単位の算出にあたっては、以下の授業科目読替表の対応科目を「同一名称の科目」として読み替える。

| 2021年度以降 | | 2020年度以前 |
|-----------------|---|-------------------|
| 特別支援教育研究特殊講義 A | ⇔ | 発達障害児教育研究特殊講義 A |
| 特別支援教育研究特殊講義 B | ⇔ | 発達障害児教育研究特殊講義 B |
| 特別支援教育研究演習 A | ⇔ | 発達障害児教育研究演習 A |
| 特別支援教育研究演習 B | ⇔ | 発達障害児教育研究演習 B |
| 障害児臨床心理研究特殊講義 A | ⇔ | 発達障害児臨床心理研究特殊講義 A |
| 障害児臨床心理研究特殊講義 B | ⇔ | 発達障害児臨床心理研究特殊講義 B |
| 障害児心理特殊講義 A | ⇔ | 心理適応論特殊講義 A |
| 障害児心理特殊講義 B | ⇔ | 心理適応論特殊講義 B |
| 障害児心理研究演習 A | ⇔ | 心理適応論研究演習 A |
| 障害児心理研究演習 B | ⇔ | 心理適応論研究演習 B |

博士後期課程

| 授業科目・研究指導 | | | | | | 講義・演習の別 | 担当教員 | 備考 |
|---------------|----|---------------|----|----------|----|---------|-------|----------------|
| 2014年度以前入学生適用 | 単位 | 2015年度以降入学生適用 | 単位 | 科目ナンバリング | 学期 | | | |
| 教育学特殊研究Ⅰ | 4 | 教育学特殊研究ⅠA | 2 | EDU701 | 春秋 | 講義 | 矢口悦子 | 教育学研究指導ⅠA/Bと共通 |
| | | 教育学特殊研究ⅠB | 2 | EDU702 | | | | |
| 教育学特殊研究Ⅱ | 4 | 教育学特殊研究ⅡA | 2 | EDU703 | 春秋 | 講義 | 吉良直 | 教育学研究指導ⅡA/Bと共通 |
| | | 教育学特殊研究ⅡB | 2 | EDU704 | | | | |
| 教育学特殊研究Ⅲ | 4 | 教育学特殊研究ⅢA | 2 | EDU705 | 春秋 | 講義 | 谷口明子 | 教育学研究指導ⅢA/Bと共通 |
| | | 教育学特殊研究ⅢB | 2 | EDU706 | | | | |
| 教育学特殊研究Ⅳ | 4 | 教育学特殊研究ⅣA | 2 | EDU707 | 春秋 | 講義 | | 本年度休講 |
| | | 教育学特殊研究ⅣB | 2 | EDU708 | | | | |
| 教育学特殊研究Ⅴ | 4 | 教育学特殊研究ⅤA | 2 | EDU709 | 春秋 | 講義 | 斎藤里美 | 教育学研究指導ⅤA/Bと共通 |
| | | 教育学特殊研究ⅤB | 2 | EDU710 | | | | |
| 教育学特殊研究Ⅵ | 4 | 教育学特殊研究ⅥA | 2 | EDU711 | 春秋 | 講義 | 篠崎信之 | 教育学研究指導ⅥA/Bと共通 |
| | | 教育学特殊研究ⅥB | 2 | EDU712 | | | | |
| 教育学特殊研究Ⅶ | 4 | 教育学特殊研究ⅦA | 2 | EDU713 | 春秋 | 講義 | 緒方登士雄 | 教育学研究指導ⅦA/Bと共通 |
| | | 教育学特殊研究ⅦB | 2 | EDU714 | | | | |
| 教育学特殊研究Ⅷ | 4 | 教育学特殊研究ⅧA | 2 | EDU715 | 春秋 | 講義 | 藤本典裕 | 教育学研究指導ⅧA/Bと共通 |
| | | 教育学特殊研究ⅧB | 2 | EDU716 | | | | |
| 教育学特殊研究ⅨA | 2 | 教育学特殊研究ⅨA | 2 | EDU717 | 春秋 | 講義 | 栗原久 | 教育学研究指導ⅨA/Bと共通 |
| 教育学特殊研究ⅨB | 2 | 教育学特殊研究ⅨB | 2 | EDU718 | | | | |
| 教育学特殊研究ⅩA | 2 | 教育学特殊研究ⅩA | 2 | EDU719 | 春秋 | 講義 | 下田好行 | 教育学研究指導ⅩA/Bと共通 |
| 教育学特殊研究ⅩB | 2 | 教育学特殊研究ⅩB | 2 | EDU720 | | | | |
| 教育学特殊研究ⅪA | 2 | 教育学特殊研究ⅪA | 2 | EDU721 | 春秋 | 講義 | | 本年度休講 |
| 教育学特殊研究ⅪB | 2 | 教育学特殊研究ⅪB | 2 | EDU722 | | | | |
| 教育学特殊研究ⅫA | 2 | 教育学特殊研究ⅫA | 2 | EDU723 | 春秋 | 講義 | 須田将司 | 教育学研究指導ⅫA/Bと共通 |
| 教育学特殊研究ⅫB | 2 | 教育学特殊研究ⅫB | 2 | EDU724 | | | | |
| 教育学特殊研究ⅬA | 2 | 教育学特殊研究ⅬA | 2 | EDU725 | 春秋 | 講義 | 長谷川勝久 | 教育学研究指導ⅬA/Bと共通 |
| 教育学特殊研究ⅬB | 2 | 教育学特殊研究ⅬB | 2 | EDU726 | | | | |
| 教育学特殊研究ⅭA | 2 | 教育学特殊研究ⅭA | 2 | EDU727 | 春秋 | 講義 | 桂直美 | 教育学研究指導ⅭA/Bと共通 |
| 教育学特殊研究ⅭB | 2 | 教育学特殊研究ⅭB | 2 | EDU728 | | | | |
| 教育学特殊研究ⅮA | 2 | 教育学特殊研究ⅮA | 2 | EDU729 | 春秋 | 講義 | 北澤俊之 | 教育学研究指導ⅮA/Bと共通 |
| 教育学特殊研究ⅮB | 2 | 教育学特殊研究ⅮB | 2 | EDU730 | | | | |
| 教育学研究指導Ⅰ | | 教育学研究指導ⅠA | | REG701 | 春秋 | | 矢口悦子 | |
| | | 教育学研究指導ⅠB | | REG702 | | | | |
| 教育学研究指導Ⅱ | | 教育学研究指導ⅡA | | REG703 | 春秋 | | 吉良直 | |
| | | 教育学研究指導ⅡB | | REG704 | | | | |
| 教育学研究指導Ⅲ | | 教育学研究指導ⅢA | | REG705 | 春秋 | | 谷口明子 | |
| | | 教育学研究指導ⅢB | | REG706 | | | | |
| 教育学研究指導Ⅳ | | 教育学研究指導ⅣA | | REG707 | 春秋 | | | 本年度休講 |
| | | 教育学研究指導ⅣB | | REG708 | | | | |
| 教育学研究指導Ⅴ | | 教育学研究指導ⅤA | | REG709 | 春秋 | | 斎藤里美 | |
| | | 教育学研究指導ⅤB | | REG710 | | | | |
| 教育学研究指導Ⅵ | | 教育学研究指導ⅥA | | REG711 | 春秋 | | 篠崎信之 | |
| | | 教育学研究指導ⅥB | | REG712 | | | | |
| 教育学研究指導Ⅶ | | 教育学研究指導ⅦA | | REG713 | 春秋 | | 緒方登士雄 | |
| | | 教育学研究指導ⅦB | | REG714 | | | | |
| 教育学研究指導Ⅷ | | 教育学研究指導ⅧA | | REG715 | 春秋 | | 藤本典裕 | |
| | | 教育学研究指導ⅧB | | REG716 | | | | |
| 教育学研究指導ⅨA | | 教育学研究指導ⅨA | | REG717 | 春秋 | | 栗原久 | |
| 教育学研究指導ⅨB | | 教育学研究指導ⅨB | | REG718 | | | | |
| 教育学研究指導ⅩA | | 教育学研究指導ⅩA | | REG719 | 春秋 | | 下田好行 | |
| 教育学研究指導ⅩB | | 教育学研究指導ⅩB | | REG720 | | | | |
| 教育学研究指導ⅪA | | 教育学研究指導ⅪA | | REG721 | 春秋 | | | 本年度休講 |
| 教育学研究指導ⅪB | | 教育学研究指導ⅪB | | REG722 | | | | |
| 教育学研究指導ⅫA | | 教育学研究指導ⅫA | | REG723 | 春秋 | | 須田将司 | |
| 教育学研究指導ⅫB | | 教育学研究指導ⅫB | | REG724 | | | | |
| 教育学研究指導ⅬA | | 教育学研究指導ⅬA | | REG725 | 春秋 | | 長谷川勝久 | |
| 教育学研究指導ⅬB | | 教育学研究指導ⅬB | | REG726 | | | | |
| 教育学研究指導ⅭA | | 教育学研究指導ⅭA | | REG727 | 春秋 | | 桂直美 | |
| 教育学研究指導ⅭB | | 教育学研究指導ⅭB | | REG728 | | | | |
| 教育学研究指導ⅮA | | 教育学研究指導ⅮA | | REG729 | 春秋 | | 北澤俊之 | |
| 教育学研究指導ⅮB | | 教育学研究指導ⅮB | | REG730 | | | | |

修了に必要な単位等

主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。

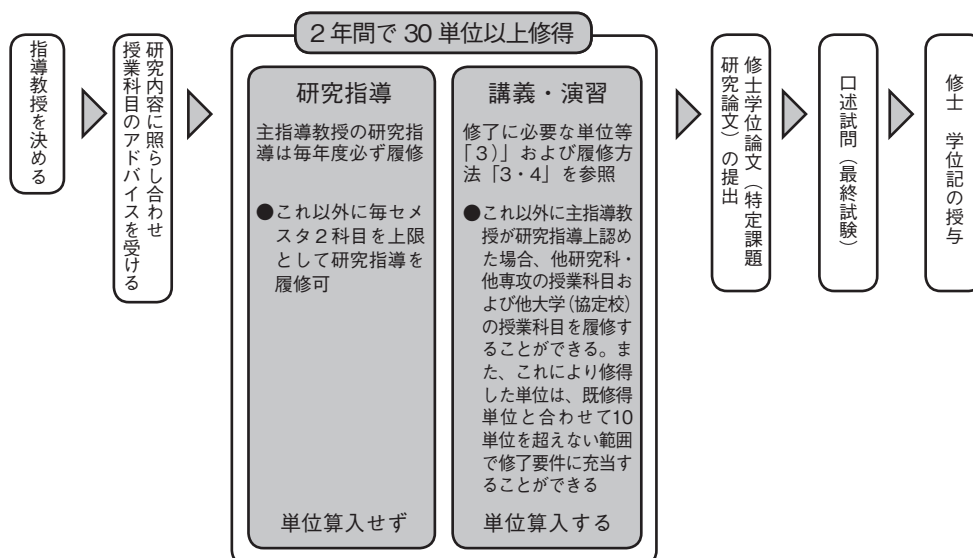
履修方法

- 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
- 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修することができる（各研究指導は、指定された講義において行う）。
- 本表に掲げたものの他、指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる。

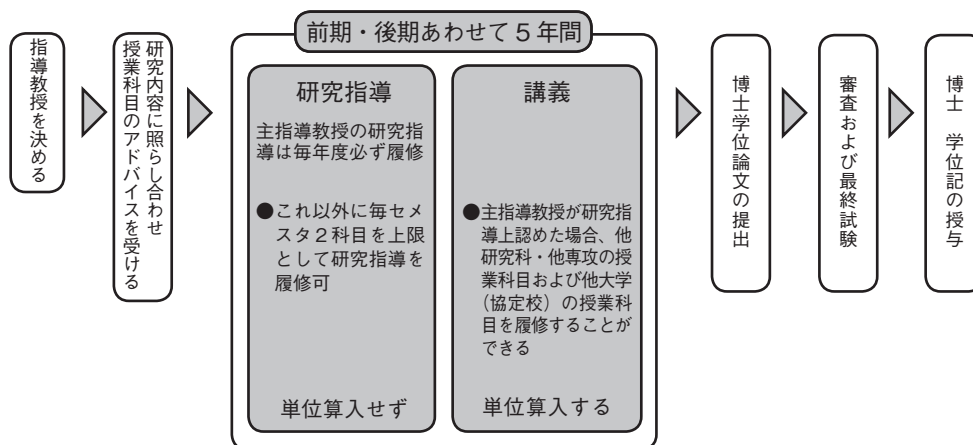
注) 通年制の学生は、「セメスタ」を「年度」と読み替えること。

国際文化コミュニケーション専攻

前期課程 履修の流れ



後期課程 履修の流れ



※本専攻では、授業内容の理解や自身の研究を一層深めるために、授業及び研究指導の一環として、海外における調査・研究や学会への参加・発表を奨励しています。

国際文化コミュニケーション専攻

博士前期課程

| 区分 | 授業科目・研究指導 | サブタイトル | 単 位 | 科目 ナンバリング | 言 語 | 学 期 | 講義・ 演習の別 | 担当教員 | 備考 |
|--------------------|--------------------|----------------|--------|--------------|--------|--------|-------------|-------------------|--|
| 言語コミュニケーション領域科目 | 言語コミュニケーション演習I A | 英語文法分析 | 2 | ENL601 | 英 | 春 | 演習 | 鈴木 雅 光 | 日英隔年開講 言語コミュニケーション研究指導 I A/B と共通 |
| | 言語コミュニケーション演習I B | 英語文法分析 | 2 | ENL602 | | 秋 | | | |
| | 言語コミュニケーション演習II A | 語用論 | 2 | LIN601 | | 春 | 演習 | 高 橋 雄 範 | 日英隔年開講 言語コミュニケーション研究指導 II A/B と共通 |
| | 言語コミュニケーション演習II B | 語用論 | 2 | LIN602 | 英 | 秋 | | | |
| | 言語コミュニケーション演習III A | 翻訳・通訳論 | 2 | FLE601 | 英 | 春 | 演習 | 竹 内 美 紀 | 日英隔年開講 言語コミュニケーション研究指導 III A/B と共通 |
| | 言語コミュニケーション演習III B | 翻訳・通訳論 | 2 | FLE602 | | 秋 | | | |
| | 言語コミュニケーション演習IV A | 日本語教育 | 2 | JLE601 | | 春 | 演習 | 平 畑 奈 美 | 言語コミュニケーション研究指導 IV A/B と共通 |
| | 言語コミュニケーション演習IV B | 日本語教育 | 2 | JLE602 | | 秋 | | | |
| | 言語コミュニケーション演習V A | 日英対照言語論 | 2 | ENL603 | | 春 | 演習 | 松 倉 信 幸 | 日英隔年開講 |
| | 言語コミュニケーション演習V B | 日英対照言語論 | 2 | ENL604 | 英 | 秋 | | | |
| | 言語コミュニケーション研究I A | 異文化コミュニケーション | 2 | FLE603 | | | 講義 | | 本年度休講 |
| | 言語コミュニケーション研究I B | 異文化コミュニケーション | 2 | FLE604 | | | | | |
| | 言語コミュニケーション研究II A | テキスト理論 | 2 | LIN603 | 英 | 春 | 講義 | 竹野谷 みゆき | 日英隔年開講 言語コミュニケーション研究指導 V A/B と共通 |
| | 言語コミュニケーション研究II B | テキスト理論 | 2 | LIN604 | | 秋 | | | |
| | 言語コミュニケーション研究III A | スピーチコミュニケーション論 | 2 | LIN605 | | 春 | 講義 | 岩 本 典 子 | 日英隔年開講 |
| | 言語コミュニケーション研究III B | スピーチコミュニケーション論 | 2 | LIN606 | 英 | 秋 | | | |
| | 言語コミュニケーション研究IV A | 英語コミュニケーション教育 | 2 | ENL605 | 英 | 春 | 講義 | 渋谷 和 郎 | 日英隔年開講 |
| | 言語コミュニケーション研究IV B | 英語コミュニケーション教育 | 2 | ENL606 | | 秋 | | | |
| | 言語コミュニケーション研究V A | 日本語教育 | 2 | JLE603 | | 春 | 講義 | 太 田 陽 子 | |
| | 言語コミュニケーション研究V B | 日本語教育 | 2 | JLE604 | | 秋 | | | |
| 言語コミュニケーション研究VI A | ドイツ語 | 2 | GER601 | | 春 | 講義 | 田 野 武 夫 | 本年度休講 (隔年開講) | |
| 言語コミュニケーション研究VI B | ドイツ語 | 2 | GER602 | | 秋 | | | | |
| 言語コミュニケーション研究VII A | フランス語 | 2 | FRA601 | | 秋 | 講義 | 朝比奈 美知子 | 国際文化研究指導 II A と共通 | |
| 言語コミュニケーション研究VII B | フランス語 | 2 | FRA602 | | 春 | | | 本年度休講 (隔年開講) | |
| 国際文化領域科目 | 国際文化演習 I A | ドイツ文学・文化 | 2 | EUL601 | | 秋 | 演習 | 田 野 武 夫 | 本年度休講 (隔年開講) |
| | 国際文化演習 I B | ドイツ文学・文化 | 2 | EUL602 | | 春 | | | |
| | 国際文化演習 II A | フランス文学・文化 | 2 | EUL603 | | 春 | 演習 | 朝比奈 美知子 | 国際文化研究指導 II B と共通 |
| | 国際文化演習 II B | フランス文学・文化 | 2 | EUL604 | | 秋 | | | 本年度休講 (隔年開講) |
| | 国際文化演習 III A | 日本文学 | 2 | JLT601 | | 春 | 演習 | 石 田 仁 志 | 国際文化研究指導 III A/B と共通 |
| | 国際文化演習 III B | 日本文学 | 2 | JLT602 | | 秋 | | | |
| | 国際文化演習 IV A | 視覚文化 | 2 | LIG601 | | 春 | 演習 | 堀 ひかり | 日英隔年開講 国際文化研究指導 IV A/B と共通 |
| | 国際文化演習 IV B | 視覚文化 | 2 | LIG602 | 英 | 秋 | | | |
| | 国際文化研究 I A | 英語文学・文化 | 2 | LIE601 | 英 | 春 | 講義 | 田 中 一 隆 | 日英隔年開講 |
| | 国際文化研究 I B | 英語文学・文化 | 2 | LIE602 | | 秋 | | | |
| | 国際文化研究 II A | 科学的思考論 | 2 | SHS601 | | 春 | 講義 | 萩 原 喜 昭 | |
| | 国際文化研究 II B | 科学的思考論 | 2 | SHS602 | | 秋 | | | |
| | 国際文化研究 III A | マスコミ文芸論 | 2 | JLT603 | | 春 | 講義 | 山 口 和 人 | |
| | 国際文化研究 III B | マスコミ文芸論 | 2 | JLT604 | | 秋 | | | |

| 区分 | 授業科目・研究指導 | サブタイトル | 単 位 | 科目 ナンバリング | 言 語 | 学 期 | 講義・ 演習の別 | 担当教員 | 備考 |
|----------|-------------------|-----------|--------|--------------|--------|--------|-------------|-------|----|
| | 国際文化研究ⅣA | 日本文化史 | 2 | LIG603 | | 春 | 講義 | 細田明宏 | |
| | 国際文化研究ⅣB | 日本文化史 | 2 | LIG604 | | 秋 | | | |
| 研究 指導 | 言語コミュニケーション研究指導ⅠA | 英語文法分析 | | REG601 | | 春 | | 鈴木雅光 | |
| | 言語コミュニケーション研究指導ⅠB | 英語文法分析 | | REG602 | | 秋 | | | |
| | 言語コミュニケーション研究指導ⅡA | 語用論 | | REG603 | | 春 | 高橋雄範 | | |
| | 言語コミュニケーション研究指導ⅡB | 語用論 | | REG604 | | 秋 | | | |
| | 言語コミュニケーション研究指導ⅢA | 翻訳・通訳論 | | REG605 | | 春 | 竹内美紀 | | |
| | 言語コミュニケーション研究指導ⅢB | 翻訳・通訳論 | | REG606 | | 秋 | | | |
| | 言語コミュニケーション研究指導ⅣA | 日本語教育 | | REG607 | | 春 | 平畑奈美 | | |
| | 言語コミュニケーション研究指導ⅣB | 日本語教育 | | REG608 | | 秋 | | | |
| | 言語コミュニケーション研究指導ⅤA | テキスト理論 | | REG609 | | 春 | 竹野谷みゆき | | |
| | 言語コミュニケーション研究指導ⅤB | テキスト理論 | | REG610 | | 秋 | | | |
| | 国際文化研究指導ⅠA | ドイツ文学・文化 | | REG611 | | 春 | 大野寿子 | | |
| | 国際文化研究指導ⅠB | ドイツ文学・文化 | | REG612 | | 秋 | | | |
| | 国際文化研究指導ⅡA | フランス文学・文化 | | REG613 | | 春 | 朝比奈美知子 | | |
| | 国際文化研究指導ⅡB | フランス文学・文化 | | REG614 | | 秋 | | | |
| | 国際文化研究指導ⅢA | 日本文学 | | REG615 | | 春 | 石田仁志 | | |
| | 国際文化研究指導ⅢB | 日本文学 | | REG616 | | 秋 | | | |
| | 国際文化研究指導ⅣA | 日本文化史 | | REG617 | | 春 | 堀ひかり | | |
| | 国際文化研究指導ⅣB | 日本文化史 | | REG618 | | 秋 | | | |
| | 国際文化研究指導ⅤA | 英語文学・文化 | | REG619 | | | | 本年度休講 | |
| | 国際文化研究指導ⅤB | 英語文学・文化 | | REG620 | | | | | |

修了に必要な単位等

- 1) 修了要件となる科目で30単位以上修得すること。
- 2) 主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。
- 3) 言語コミュニケーション領域科目および国際文化領域科目から、それぞれ2科目4単位以上の計4科目8単位以上を修得すること。

履修方法

1. 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
2. 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修・修得することができる。
3. 主指導教授が担当する「演習」または「講義」は、同一科目を在学中何回でも履修・単位修得することができる。ただし、3回目以降（長期履修学生および原級した場合等）の履修によって修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない。
4. 履修方法3以外の「演習」または「講義」は、在学中1回のみ履修・単位修得することができる。
5. 本表に掲げたものの他、指導教授が教育上必要と認めるときは、学則第8条に基づき、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる（同一科目は1回目のみ修了要件として扱い、2回目以降の履修によって修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない）。また、上記により履修し修得した単位は、学則第10条の2に基づく、本大学院に入学する前に修得し、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなす単位（既修得単位）と合わせて、10単位を超えない範囲で修了要件に充当することができる。

博士後期課程

| 区分 | 授業科目・研究指導 | サブタイトル | 単位 | 科目ナンバリング | 学期 | 講義・演習の別 | 担当教員 | 備考 |
|-----------------|----------------------|-----------|----|----------|----|---------|---------|-----------------------------|
| 言語コミュニケーション領域科目 | 言語コミュニケーション特殊研究I A | 英語構造分析 | 2 | ENL701 | 春秋 | 講義 | 鈴木 雅 光 | 言語コミュニケーション研究指導 I A/B と共通 |
| | 言語コミュニケーション特殊研究I B | 英語構造分析 | 2 | ENL702 | 春秋 | | | |
| | 言語コミュニケーション特殊研究II A | 語用論 | 2 | LIN701 | 春秋 | 講義 | 高 橋 雄 範 | 言語コミュニケーション研究指導 II A/B と共通 |
| | 言語コミュニケーション特殊研究II B | 語用論 | 2 | LIN702 | 春秋 | | | |
| | 言語コミュニケーション特殊研究III A | 翻訳・通訳論 | 2 | FLE701 | 春秋 | 講義 | 竹 内 美 紀 | 言語コミュニケーション研究指導 III A/B と共通 |
| | 言語コミュニケーション特殊研究III B | 翻訳・通訳論 | 2 | FLE702 | 春秋 | | | |
| | 言語コミュニケーション特殊研究IV A | 日本語教育 | 2 | JLE701 | 春秋 | 講義 | 平 畑 奈 美 | 言語コミュニケーション研究指導 IV A/B と共通 |
| | 言語コミュニケーション特殊研究IV B | 日本語教育 | 2 | JLE702 | 春秋 | | | |
| | 言語コミュニケーション特殊研究V A | テキスト理論 | 2 | LIN703 | 春秋 | 講義 | 竹野谷 みゆき | 言語コミュニケーション研究指導 V A/B と共通 |
| | 言語コミュニケーション特殊研究V B | テキスト理論 | 2 | LIN704 | 春秋 | | | |
| 国際文化領域科目 | 国際文化特殊研究 I A | ドイツ文学・文化 | 2 | EUL701 | 春秋 | 講義 | 大 野 寿 子 | 国際文化研究指導 I A/B と共通 |
| | 国際文化特殊研究 I B | ドイツ文学・文化 | 2 | EUL702 | 春秋 | | | |
| | 国際文化特殊研究 II A | フランス文学・文化 | 2 | EUL703 | 春秋 | 講義 | 朝比奈 美知子 | 国際文化研究指導 II A/B と共通 |
| | 国際文化特殊研究 II B | フランス文学・文化 | 2 | EUL704 | 春秋 | | | |
| | 国際文化特殊研究 III A | 日本文学 | 2 | JLT701 | 春秋 | 講義 | 石 田 仁 志 | 国際文化研究指導 III A/B と共通 |
| | 国際文化特殊研究 III B | 日本文学 | 2 | JLT702 | 春秋 | | | |
| | 国際文化特殊研究 IV A | 日本文化史 | 2 | LIG701 | 春秋 | 講義 | 堀 ひとかり | 国際文化研究指導 IV A/B と共通 |
| | 国際文化特殊研究 IV B | 日本文化史 | 2 | LIG702 | 春秋 | | | |
| 研究指導 | 言語コミュニケーション研究指導I A | 英語構造分析 | | REG701 | 春秋 | | 鈴木 雅 光 | |
| | 言語コミュニケーション研究指導I B | 英語構造分析 | | REG702 | 春秋 | | | |
| | 言語コミュニケーション研究指導II A | 語用論 | | REG703 | 春秋 | | 高 橋 雄 範 | |
| | 言語コミュニケーション研究指導II B | 語用論 | | REG704 | 春秋 | | | |
| | 言語コミュニケーション研究指導III A | 翻訳・通訳論 | | REG705 | 春秋 | | 竹 内 美 紀 | |
| | 言語コミュニケーション研究指導III B | 翻訳・通訳論 | | REG706 | 春秋 | | | |
| | 言語コミュニケーション研究指導IV A | 日本語教育 | | REG707 | 春秋 | | 平 畑 奈 美 | |
| | 言語コミュニケーション研究指導IV B | 日本語教育 | | REG708 | 春秋 | | | |
| | 言語コミュニケーション研究指導V A | テキスト理論 | | REG709 | 春秋 | | 竹野谷 みゆき | |
| | 言語コミュニケーション研究指導V B | テキスト理論 | | REG710 | 春秋 | | | |
| | 国際文化研究指導 I A | ドイツ文学・文化 | | REG711 | 春秋 | | 大 野 寿 子 | |
| | 国際文化研究指導 I B | ドイツ文学・文化 | | REG712 | 春秋 | | | |
| | 国際文化研究指導 II A | フランス文学・文化 | | REG713 | 春秋 | | 朝比奈 美知子 | |
| | 国際文化研究指導 II B | フランス文学・文化 | | REG714 | 春秋 | | | |
| | 国際文化研究指導 III A | 日本文学 | | REG715 | 春秋 | | 石 田 仁 志 | |
| | 国際文化研究指導 III B | 日本文学 | | REG716 | 春秋 | | | |
| | 国際文化研究指導 IV A | 日本文化史 | | REG717 | 春秋 | | 堀 ひとかり | |
| | 国際文化研究指導 IV B | 日本文化史 | | REG718 | 春秋 | | | |

修了に必要な単位等

- 1) 主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。

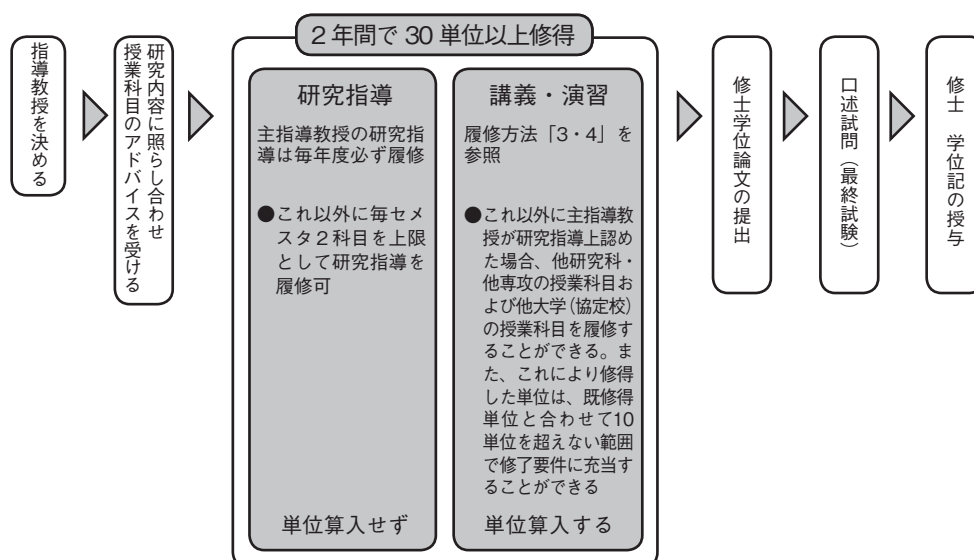
履修方法

1. 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
2. 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修・修得することができる。
3. 本表に掲げたものの他、指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる。

英語コミュニケーション専攻 (2018年度入学生まで)

前期課程

履修の流れ



英語コミュニケーション専攻

博士前期課程（2018年度入学生まで）

| 授業科目・研究指導 | 単位 | 科目ナンバリング | 学期 | 講義・演習の別 | 担当教員 | 備考 |
|--------------------|----|----------|----|---------|--------|------------------|
| 英語文法分析演習A | 2 | ENL601 | 春秋 | 演習 | 鈴木雅光 | 英語文法分析研究指導A/Bと共通 |
| 英語文法分析演習B | 2 | ENL602 | 春秋 | 演習 | 鈴木雅光 | |
| 日英対照言語論演習A | 2 | LIN601 | 春秋 | 演習 | 松倉信幸 | |
| 日英対照言語論演習B | 2 | LIN602 | 春秋 | 演習 | 松倉信幸 | |
| 語用論演習A | 2 | LIN603 | 春秋 | 演習 | 高橋雄範 | 語用論研究指導A/Bと共通 |
| 語用論演習B | 2 | LIN604 | 春秋 | 演習 | 高橋雄範 | |
| 翻訳・通訳論演習A | 2 | FLE601 | 春秋 | 演習 | 竹内美紀 | 翻訳・通訳論研究指導A/Bと共通 |
| 翻訳・通訳論演習B | 2 | FLE602 | 春秋 | 演習 | 竹内美紀 | |
| 異文化コミュニケーションA | 2 | FLE603 | | 講義 | | 本年度休講 |
| 異文化コミュニケーションB | 2 | FLE604 | | 講義 | | 本年度休講 |
| スピーチコミュニケーションA | 2 | FLE605 | | 講義 | | 本年度休講 |
| スピーチコミュニケーションB | 2 | FLE606 | | 講義 | | 本年度休講 |
| 英語文学・英語文化A | 2 | LIE601 | 春秋 | 講義 | 田中一隆 | |
| 英語文学・英語文化B | 2 | LIE602 | 春秋 | 講義 | 田中一隆 | |
| テキスト理論演習A | 2 | LIN605 | 春秋 | 講義 | 竹野谷みゆき | テキスト理論研究指導A/Bと共通 |
| テキスト理論演習B | 2 | LIN606 | 春秋 | 講義 | 竹野谷みゆき | |
| グローバル英語教育A | 2 | FLE607 | | 講義 | | 本年度休講 |
| グローバル英語教育B | 2 | FLE608 | | 講義 | | 本年度休講 |
| 英語コミュニケーション教育A | 2 | FLE609 | 春秋 | 講義 | 渋谷和郎 | |
| 英語コミュニケーション教育B | 2 | FLE610 | 春秋 | 講義 | 渋谷和郎 | |
| 英語文法分析研究指導A | | REG601 | 春秋 | | 鈴木雅光 | |
| 英語文法分析研究指導B | | REG602 | 春秋 | | 鈴木雅光 | |
| 日英対照言語論研究指導A | | REG603 | | | | 本年度休講 |
| 日英対照言語論研究指導B | | REG604 | | | | 本年度休講 |
| 語用論研究指導A | | REG605 | 春秋 | | 高橋雄範 | |
| 語用論研究指導B | | REG606 | 春秋 | | 高橋雄範 | |
| 翻訳・通訳論研究指導A | | REG607 | 春秋 | | 竹内美紀 | |
| 翻訳・通訳論研究指導B | | REG608 | 春秋 | | 竹内美紀 | |
| 異文化コミュニケーション研究指導A | | REG609 | | | | 本年度休講 |
| 異文化コミュニケーション研究指導B | | REG610 | | | | 本年度休講 |
| スピーチコミュニケーション研究指導A | | REG611 | | | | 本年度休講 |
| スピーチコミュニケーション研究指導B | | REG612 | | | | 本年度休講 |
| 英語文学・英語文化研究指導A | | REG613 | | | | 本年度休講 |
| 英語文学・英語文化研究指導B | | REG614 | | | | 本年度休講 |
| テキスト理論研究指導A | | REG615 | 春秋 | | 竹野谷みゆき | |
| テキスト理論研究指導B | | REG616 | 春秋 | | 竹野谷みゆき | |
| グローバル英語教育研究指導A | | REG617 | | | | 本年度休講 |
| グローバル英語教育研究指導B | | REG618 | | | | 本年度休講 |
| 英語コミュニケーション教育研究指導A | | REG619 | | | | 本年度休講 |
| 英語コミュニケーション教育研究指導B | | REG620 | | | | 本年度休講 |

修了に必要な単位等

- 1) 修了要件となる科目で30単位以上修得すること。
- 2) 主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。

履修方法

1. 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
2. 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修・修得することができる（各研究指導は、指定された講義または演習において行う）。
3. 主指導教授が担当する「講義」または「演習」は、同一科目を在学中何回でも履修・単位修得することができる。ただし、3回目以降（長期履修学生および原級した場合等）の履修によって修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない。なお、ここで対象とする「講義」または「演習」は、「研究指導」と共通して開講されるものに限る。
4. 履修方法3以外の「講義」または「演習」は、在学中1回のみ履修・単位修得することができる。
5. 本表に掲げたものの他、指導教授が教育上必要と認めるときは、学則第8条に基づき、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる（同一科目は1回目のみ修了要件として扱い、2回目以降の履修によって修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない）。
また、上記により履修し修得した単位は、学則第10条の2に基づき、本大学院に入学する前に修得し、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなす単位（既修得単位）と合わせて、10単位を超えない範囲で修了要件に充当することができる。